

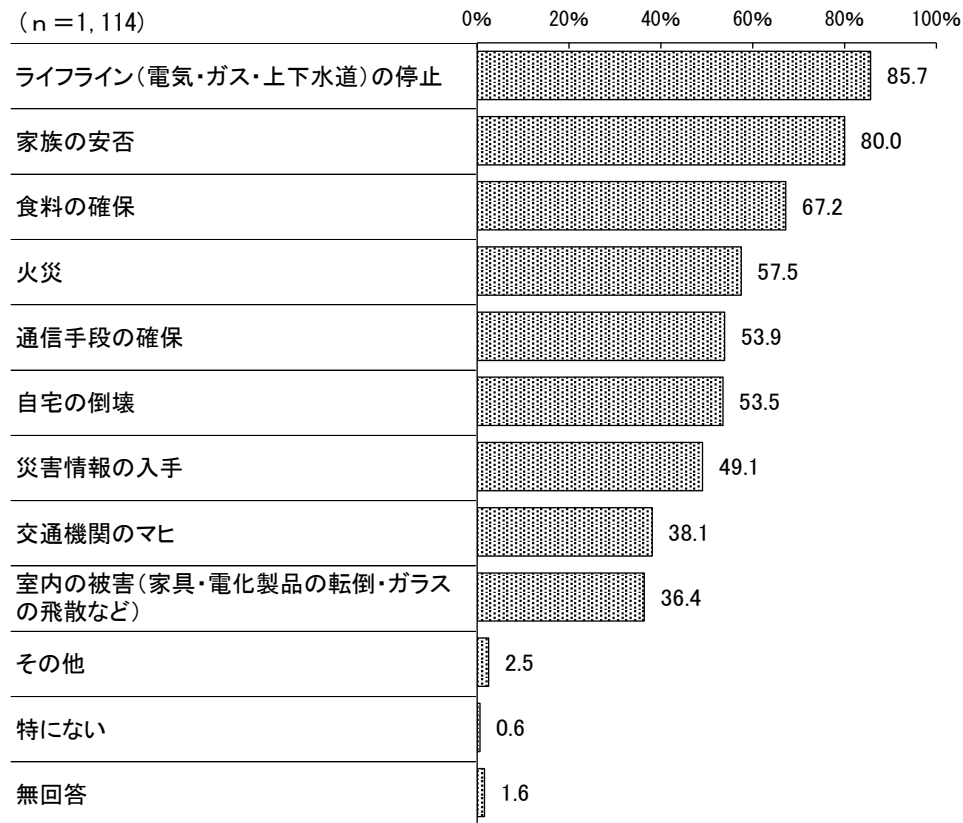
## 2 防災について

### (1) 大きな地震発生時の心配ごと

◇「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」が8割半ば

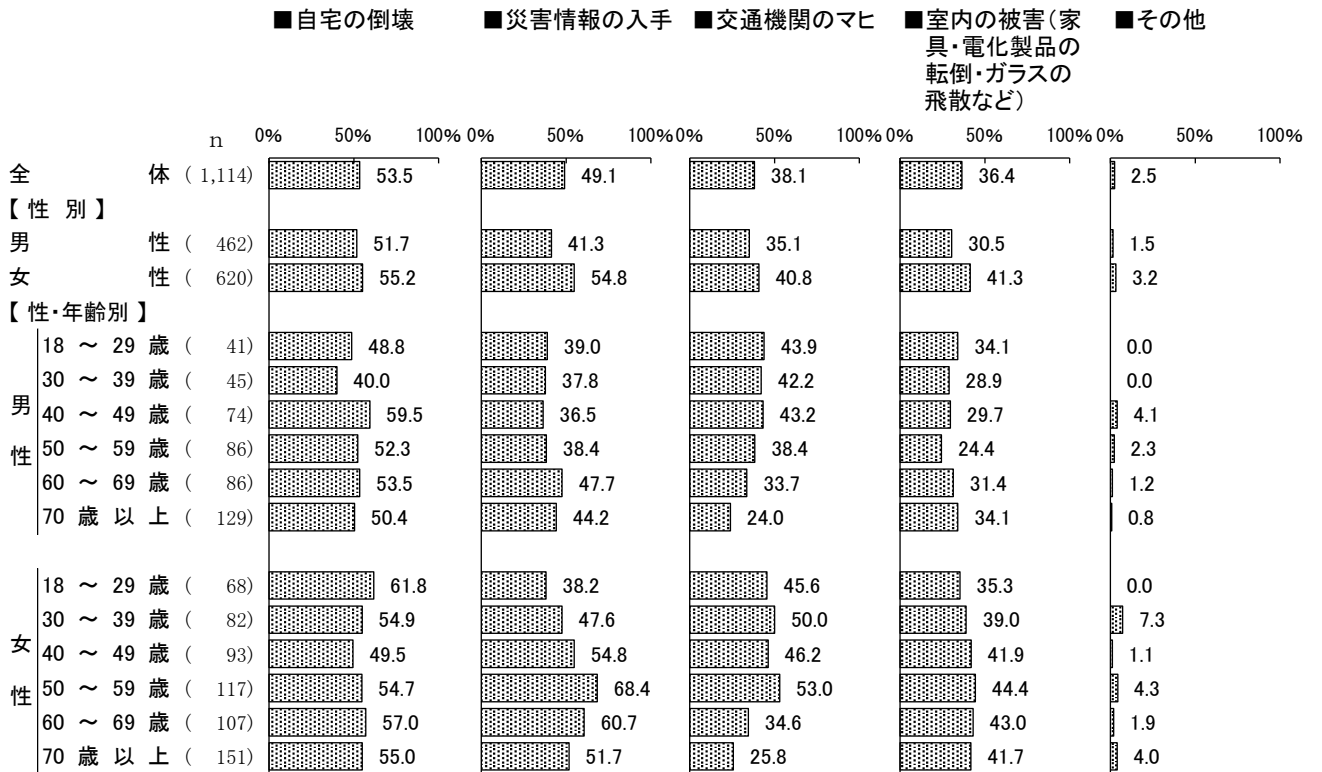
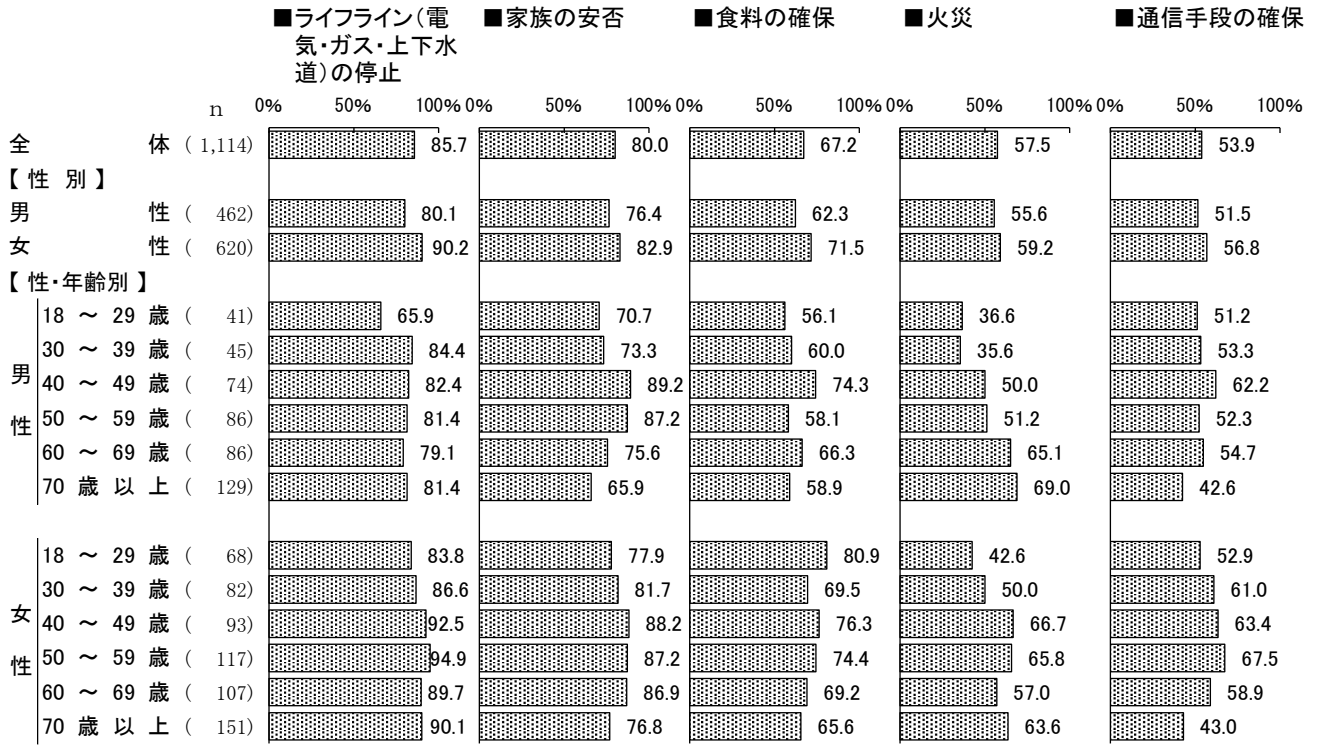
問27 大きな地震が発生した時、何が心配ですか。（○はいくつでも）

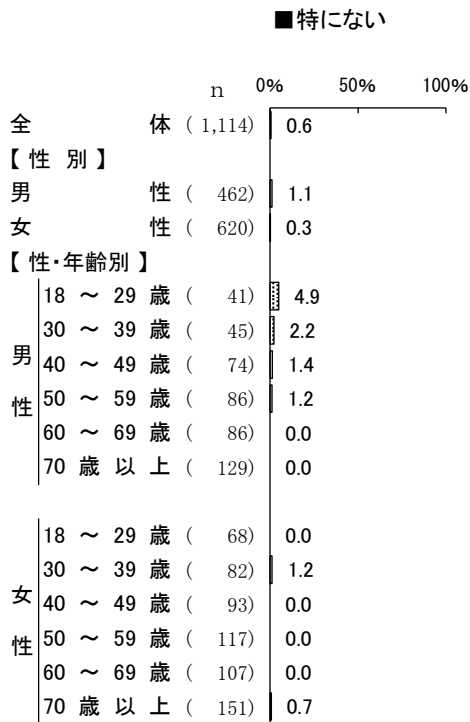
図2-1-1 大きな地震発生時の心配ごと



大きな地震発生時の心配ごとについて聞いたところ、「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」（85.7%）が8割半ばと最も多く、次いで「家族の安否」（80.0%）、「食料の確保」（67.2%）、「火災」（57.5%）、「通信手段の確保」（53.9%）などの順となっている。（図2-1-1）

図2-1-2 大きな地震発生時の心配ごと—性別／性・年齢別





性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「災害情報の入手」で13.5ポイント、「室内の被害（家具・電化製品の転倒・ガラスの飛散など）」で10.8ポイント、「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」で10.1ポイント、「食料の確保」で9.2ポイント、「家族の安否」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。

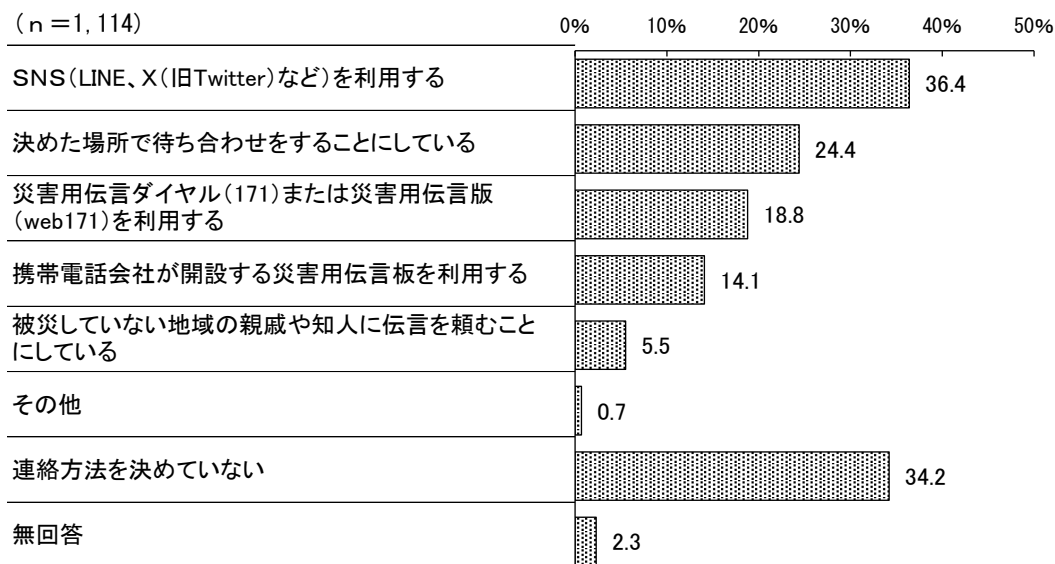
性・年齢別にみると、「家族の安否」は男性40～49歳で約9割と多くなっている。「食料の確保」は女性18～29歳で約8割と多くなっている。また、「火災」は男性70歳以上で約7割と多くなっている。（図2-1-2）

## (2) 災害時の家族との連絡方法の決めごと

◇「SNS (LINE、X (旧Twitter) など) を利用する」が3割半ば

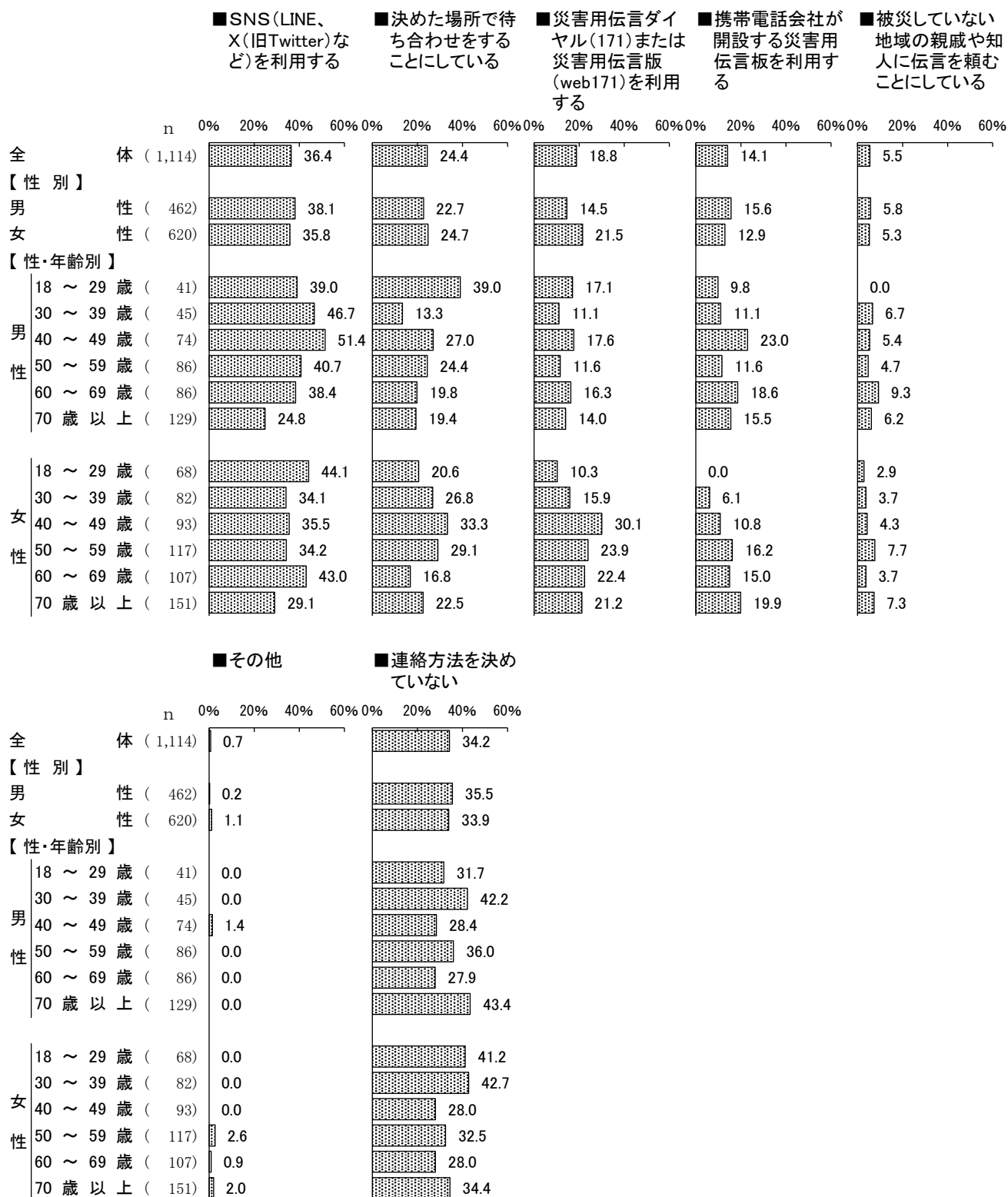
問28 災害時の電話が通じにくい際、家族との連絡方法をあらかじめ決めてありますか。  
(〇はいくつでも)

図2-2-1 災害時の家族との連絡方法の決めごと



災害時の家族との連絡方法の決めごとについて聞いたところ、「SNS (LINE、X (旧Twitter) など) を利用する」(36.4%)が3割半ばと最も多く、次いで「決めた場所で待ち合わせをすることになっている」(24.4%)、「災害用伝言ダイヤル(171)または災害用伝言版(web171)を利用する」(18.8%)などの順となっている。一方、「連絡方法を決めていない」(34.2%)は3割半ばとなっている。(図2-2-1)

図2-2-2 災害時の家族との連絡方法の決めごと—性別／性・年齢別



性別にみると、「災害用伝言ダイヤル（171）または災害用伝言版（web171）を利用する」は女性の方が男性より7.0ポイント高くなっている。

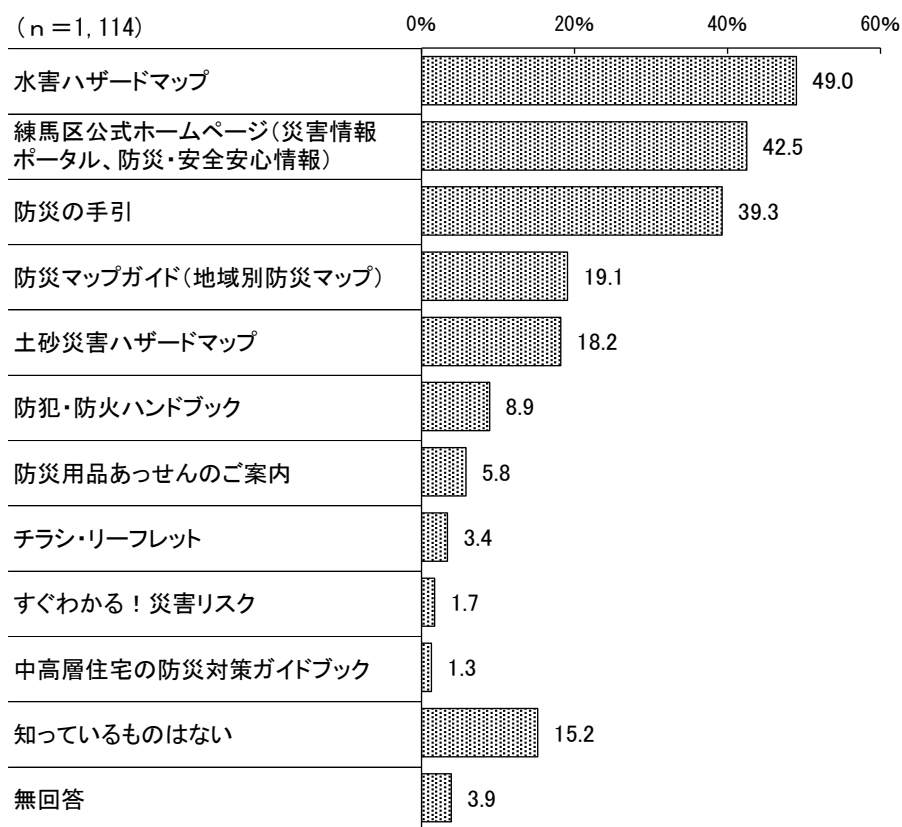
性・年齢別にみると、「SNS（LINE、X（旧Twitter）など）を利用する」は男性40～49歳で5割を超えて多くなっている。「決めた場所で待ち合わせをすることになっている」は男性18～29歳で約4割と多くなっている。（図2-2-2）

### (3) 知っている区の防災情報

◇「水害ハザードマップ」が約5割

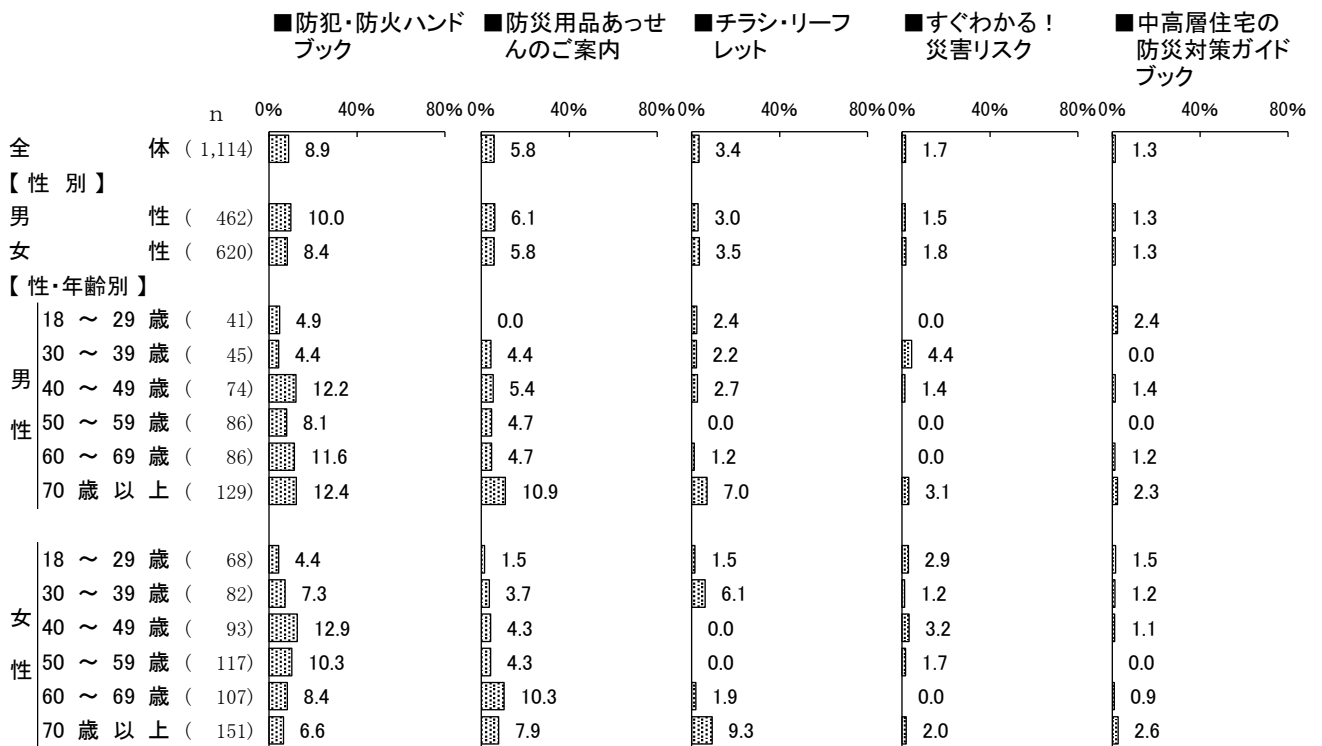
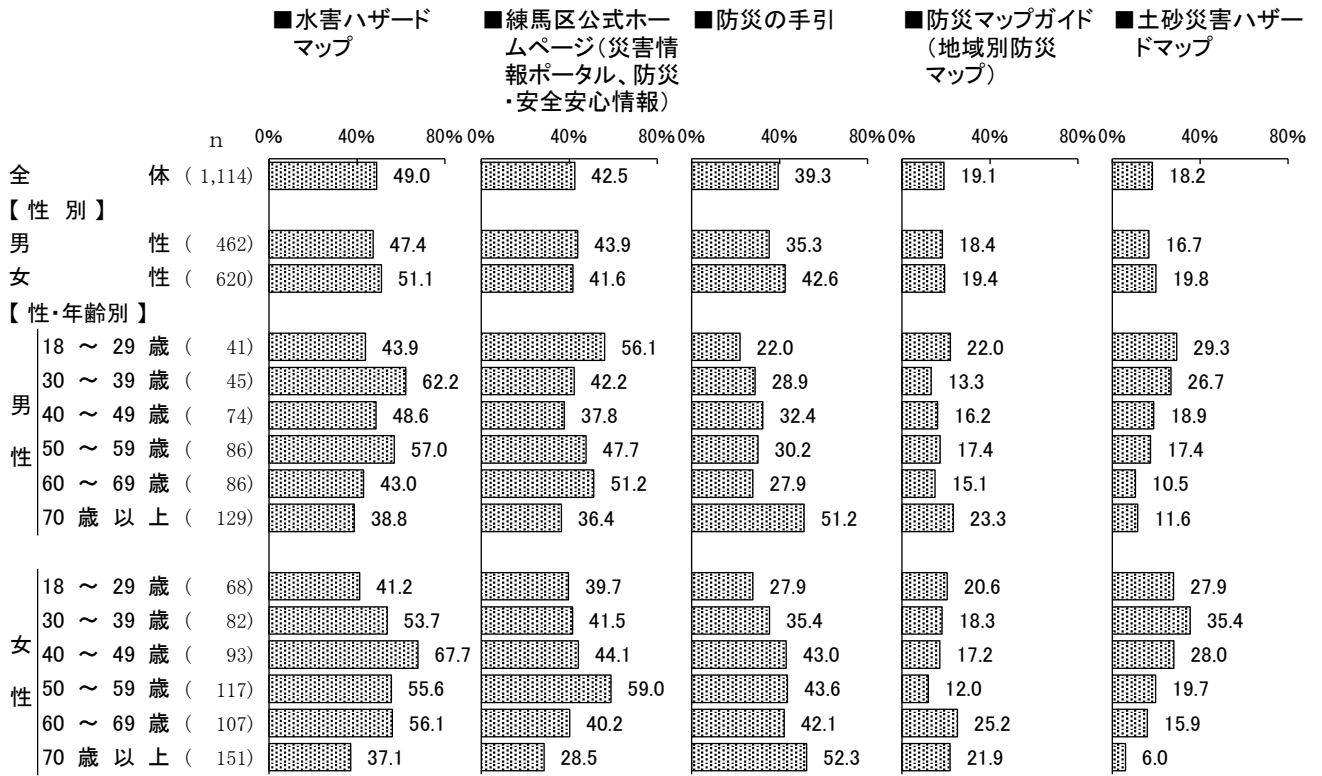
問29 練馬区では、様々な媒体で防災に関する情報をお知らせしています。次に挙げるもののうち、知っているものに○をつけてください。(○はいくつでも)

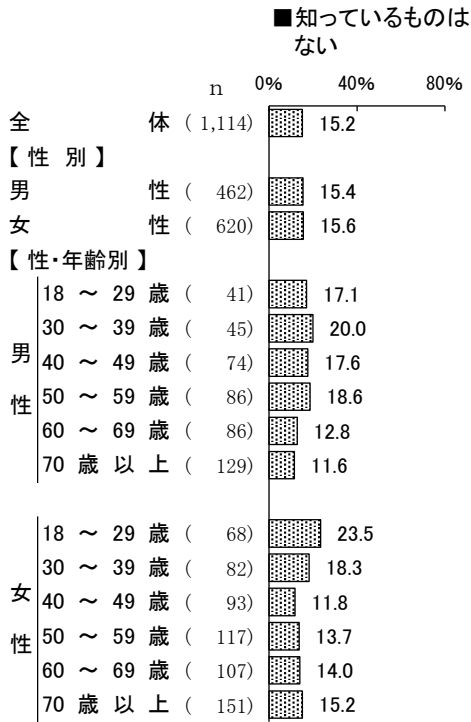
図2-3-1 知っている区の防災情報



知っている区の防災情報について聞いたところ、「水害ハザードマップ」(49.0%)が約5割と最も多く、次いで「練馬区公式ホームページ(災害情報ポータル、防災・安全安心情報)」(42.5%)、「防災の手引」(39.3%)、「防災マップガイド(地域別防災マップ)」(19.1%)などの順となっている。(図2-3-1)

図 2-3-2 知っている区の防災情報—性別／性・年齢別





性別にみると、「防災の手引」は女性の方が男性より7.3ポイント、「水害ハザードマップ」は3.7ポイント、「土砂災害ハザードマップ」は3.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「水害ハザードマップ」は女性40～49歳で7割近くと多くなっている。「練馬区公式ホームページ（災害情報ポータル、防災・安全安心情報）」は女性50～59歳で約6割と多くなっている。また、「防災の手引」は男性70歳以上、女性70歳以上で5割を超えて多くなっている。（図2-3-2）

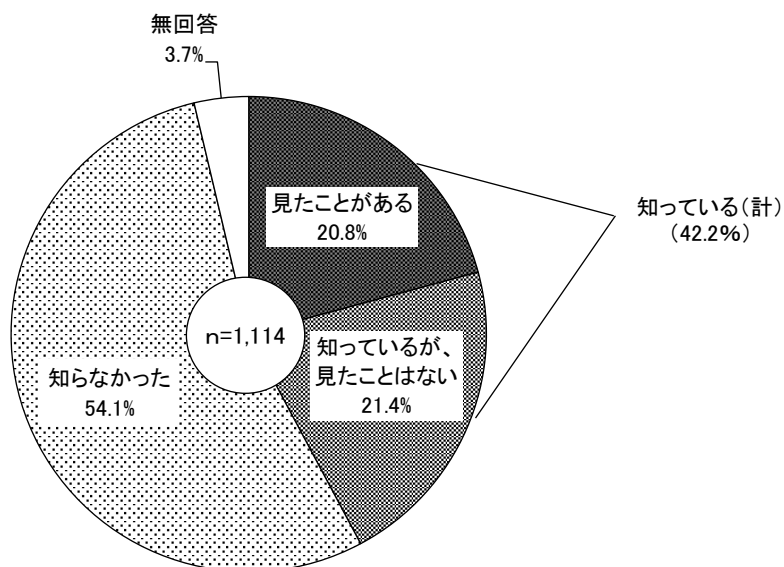


(4) 『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクの確認

◇「知らなかった」が5割半ば

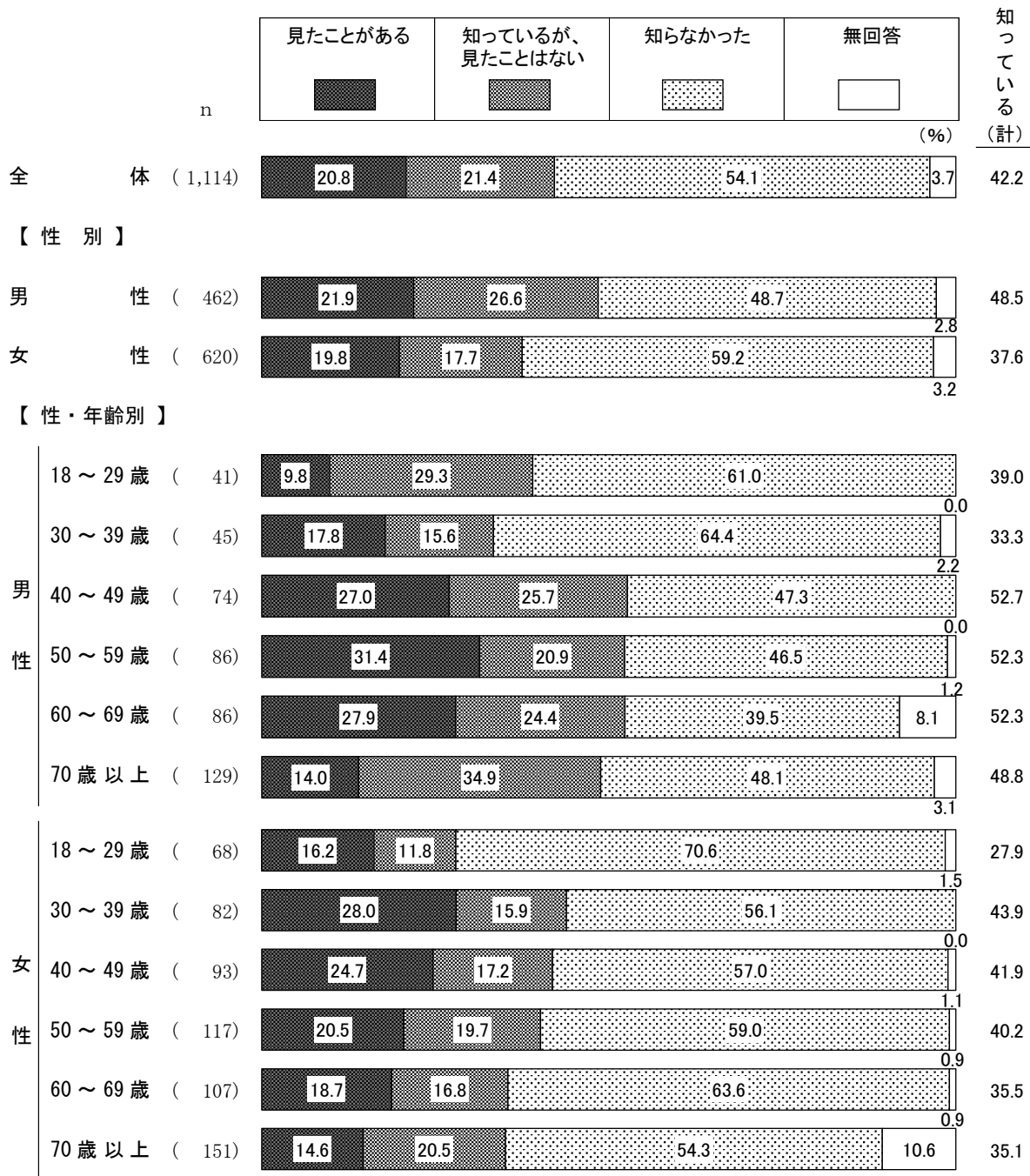
問30 「東京被害想定デジタルマップ」では首都直下地震の震度分布等を確認することができます。このデジタルマップを見て、自宅周辺の災害リスクを確認したことがありますか。(〇は1つ)

図2-4-1 『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクの確認



『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクを確認したことがあるか聞いたところ、「見たことがある」(20.8%)が約2割、「知っているが、見たことはない」(21.4%)が2割を超えており、この2つを合わせた『知っている』(42.2%)が4割を超えている。一方、「知らなかった」(54.1%)が5割半ばとなっている。(図2-4-1)

図2-4-2 『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクの確認—性別／性・年齢別



性別にみると、『知っている』は男性の方が女性より10.9ポイント高くなっている。一方、『知らなかった』は女性の方が男性より10.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「見たことがある」は男性50～59歳で3割を超えて多くなっている。『知っている』は男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳で5割を超えて多くなっている。一方、「知らなかった」は女性18～29歳で約7割と多くなっている。(図2-4-2)

## (5) 家庭で備蓄しているもの

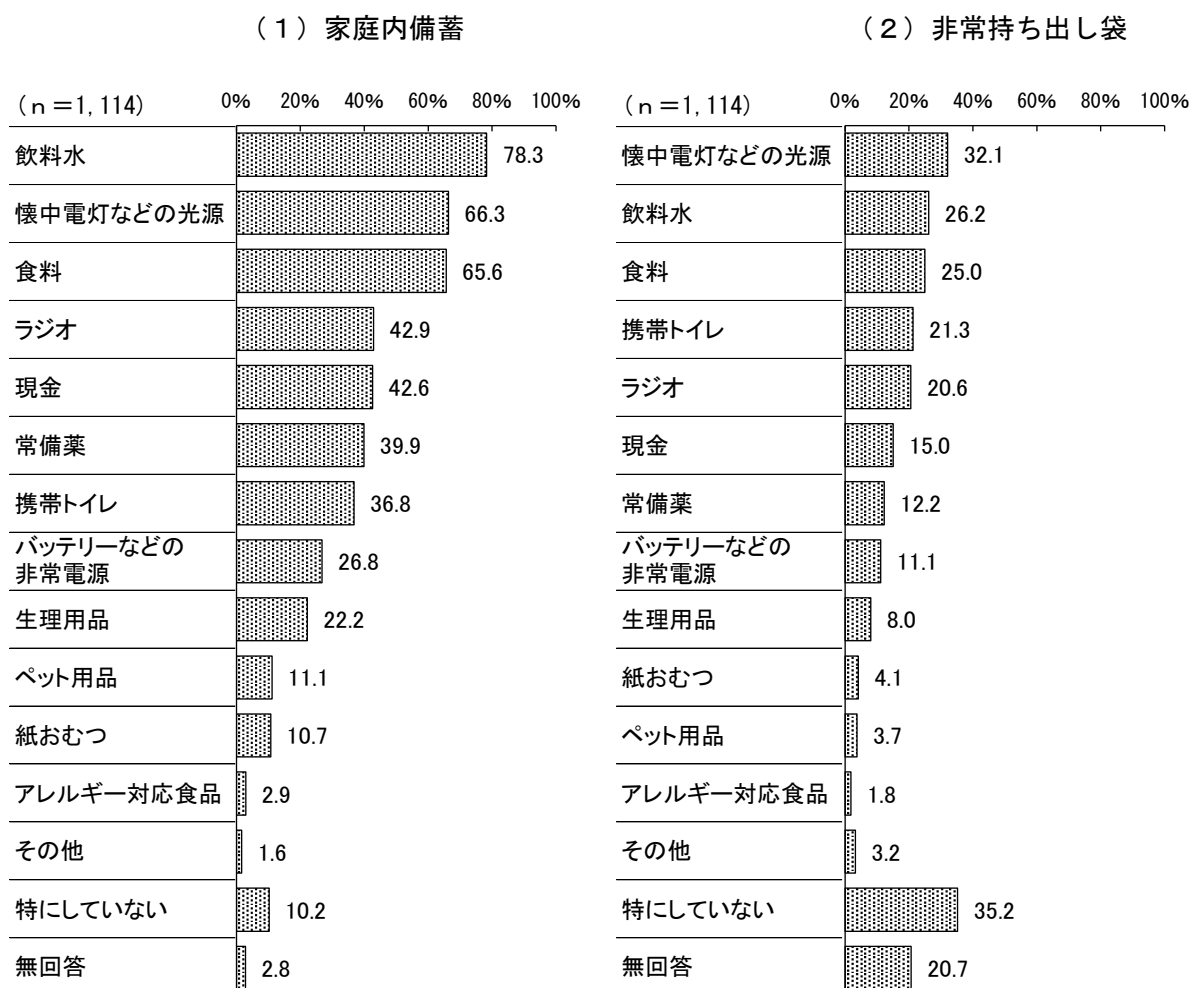
◇家庭内備蓄は「飲料水」が8割近く

◇非常持ち出し袋は「懐中電灯などの光源」が3割を超えている

問31 家庭での備えとして、備蓄しているものは何ですか。また、自宅に危険があり、自宅以外に避難する場合でも、避難生活で欠かせないものや、生活しやすくするものをまとめた「非常持ち出し袋」の準備が不可欠です。

(1) 家庭内備蓄、(2) 非常持ち出し袋について、次に挙げるもののうち、日頃から備えているものに○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

図2-5-1 家庭で備蓄しているもの

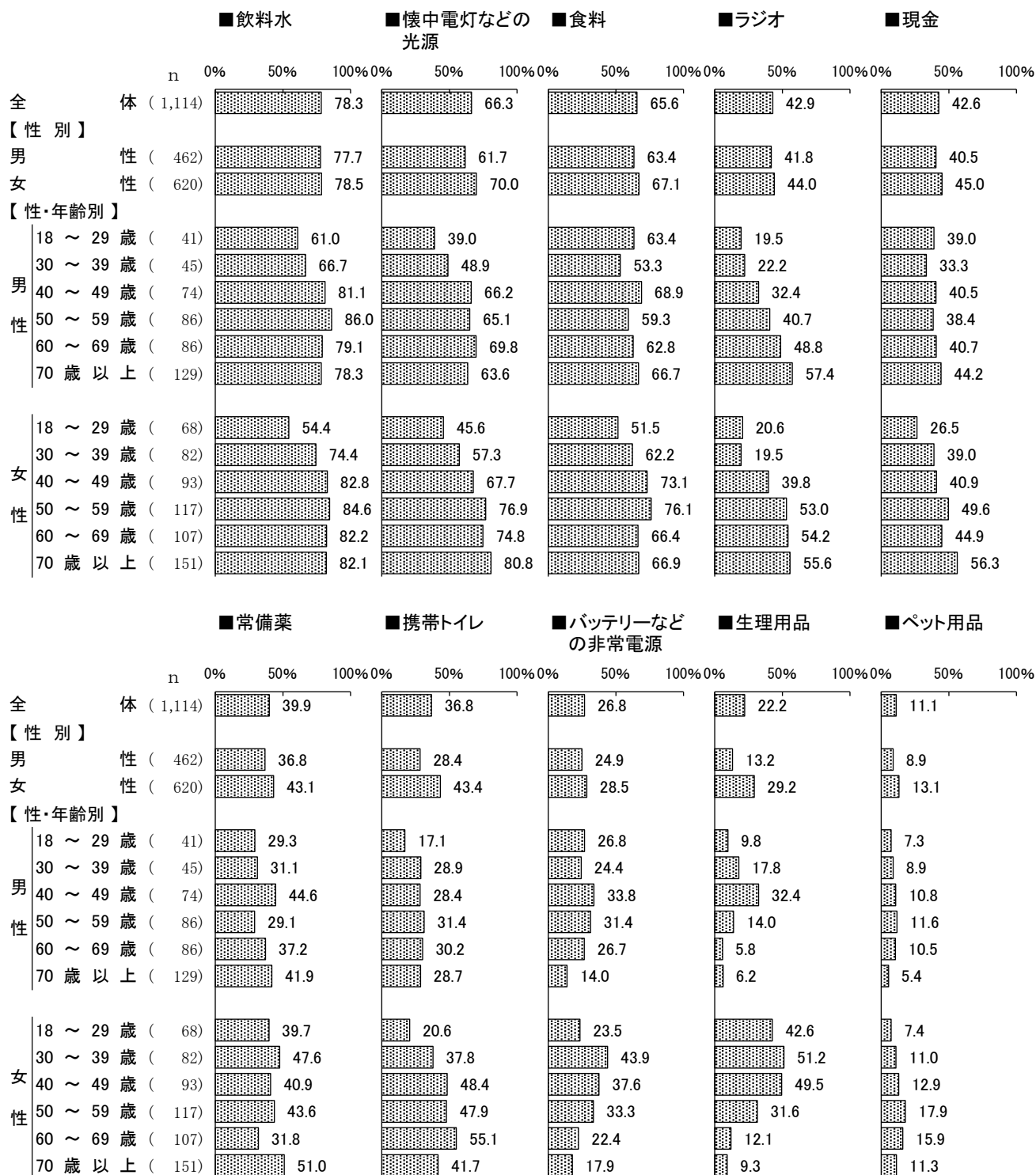


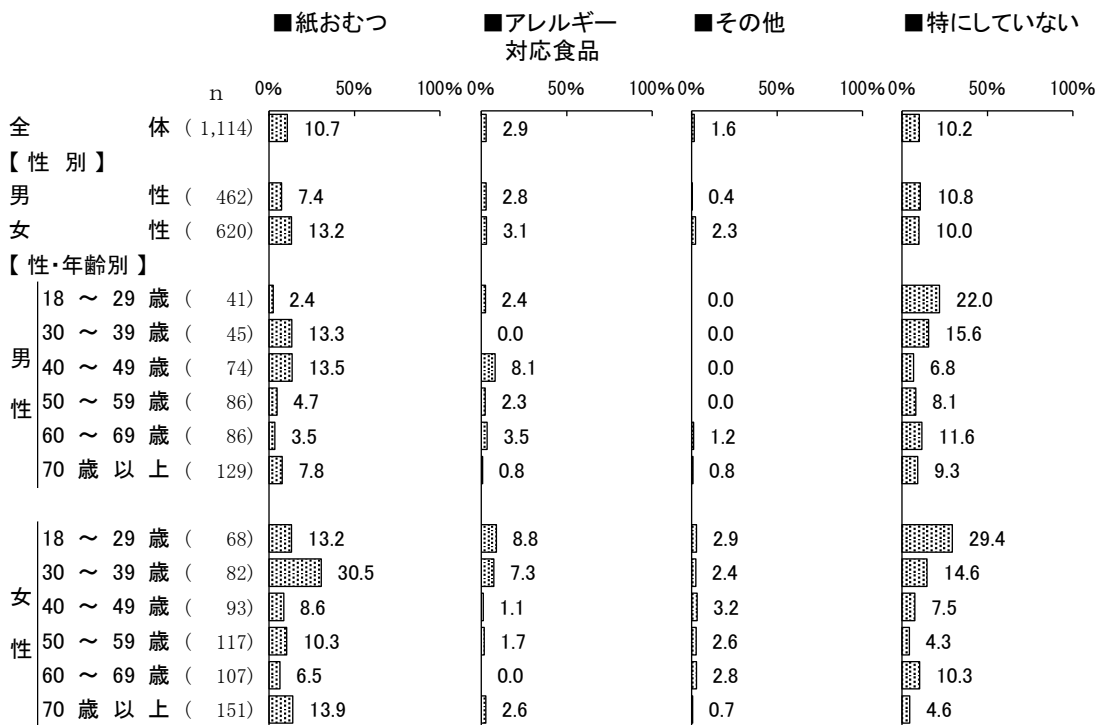
家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、(1) 家庭内備蓄は、「飲料水」(78.3%)が8割近くと最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」(66.3%)、「食料」(65.6%)、「ラジオ」(42.9%)、「現金」(42.6%)、「常備薬」(39.9%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(10.2%)は1割となっている。

(2) 非常持ち出し袋は、「懐中電灯などの光源」(32.1%)が3割を超えて最も多く、次いで「飲料水」(26.2%)、「食料」(25.0%)、「携帯トイレ」(21.3%)、「ラジオ」(20.6%)、「現金」(15.0%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(35.2%)は3割半ばとなっている。(図2-5-1)

図 2-5-2 家庭で備蓄しているもの—性別／性・年齢別

(1) 家庭内備蓄



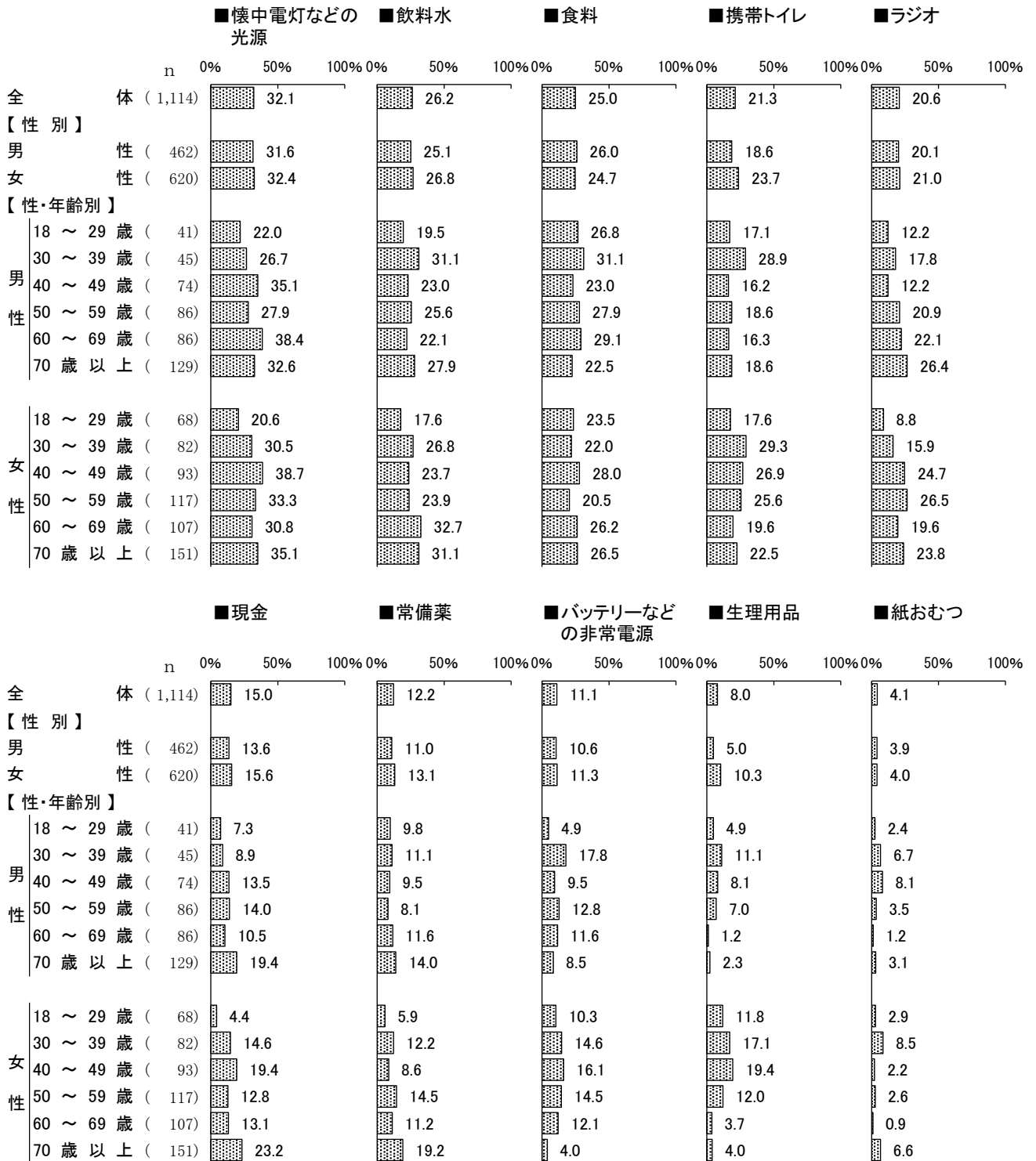


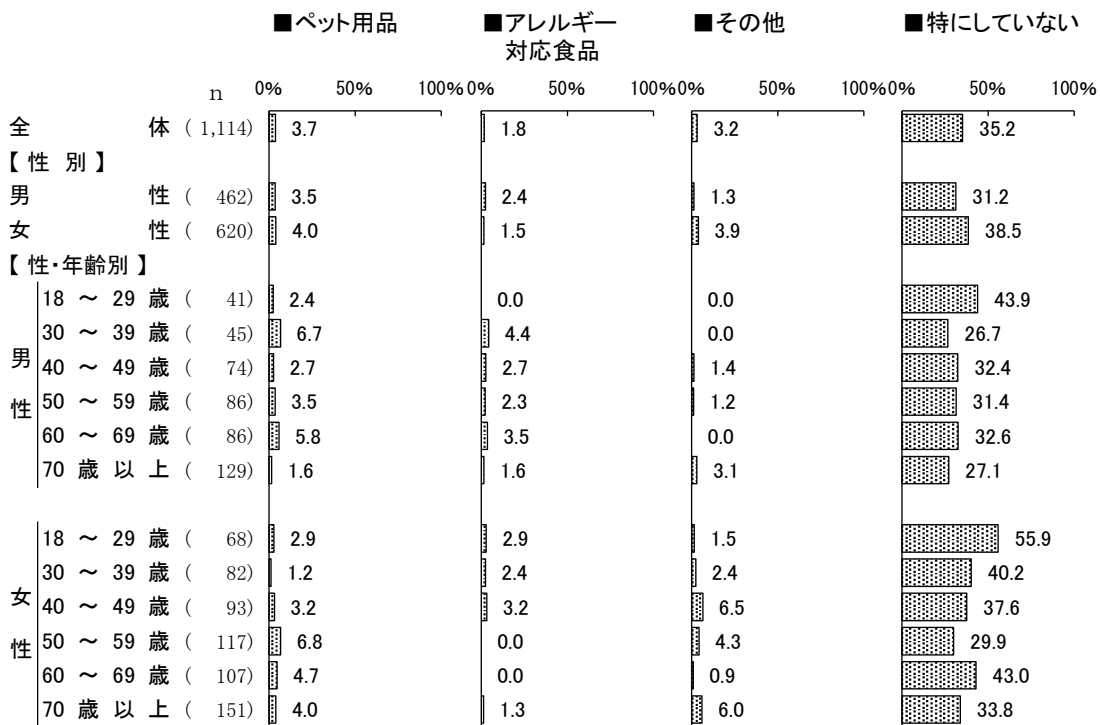
(1) 家庭内備蓄について性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「携帯トイレ」は女性の方が男性より15.0ポイント、「懐中電灯などの光源」は8.3ポイント、「常備薬」は6.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性別・年齢別にみると、「飲料水」は男性50～59歳で8割半ばと多くなっている。「懐中電灯などの光源」は女性70歳以上で約8割と多くなっている。「食料」は女性50～59歳で7割半ばと多くなっている。また、「ラジオ」は男性70歳以上で6割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性18～29歳で約3割と多くなっている。(図2-5-2)

図 2-5-3 家庭で備蓄しているもの—性別／性・年齢別

(2) 非常持ち出し袋





(2) 非常持ち出し袋について性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が男性より高くなっており、「携帯トイレ」は女性の方が男性より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「懐中電灯などの光源」は男性60~69歳、女性40~49歳で4割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性18~29歳で5割半ばと多くなっている。

(図2-5-3)

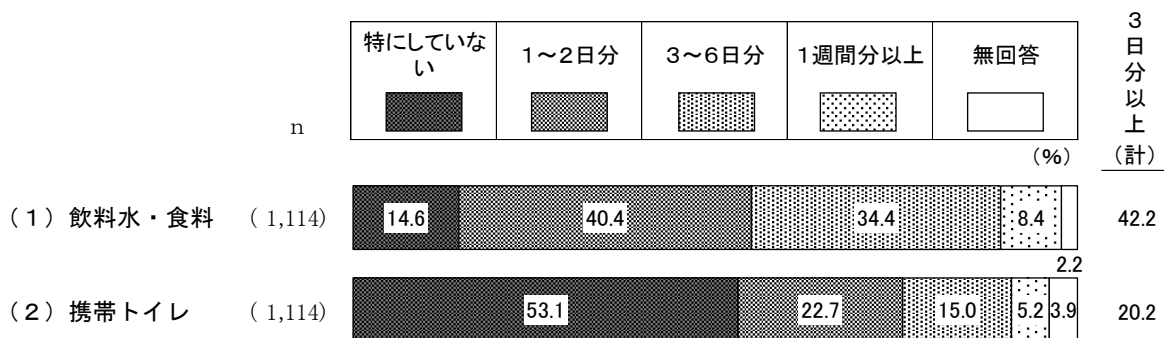
(5-1) 家庭での備蓄量

◇飲料水・食料は『3日分以上』が4割を超える

◇携帯トイレは「特にしていない」が5割を超える

問31-1 あなたは、家庭での備えは、最低でも3日分、可能な限り1週間分の備蓄をしておくことが重要です。あなたは、問31でお聞きした備蓄物資のうち(1)飲料水・食料、(2)携帯トイレについて、どのくらい備蓄していますか。(〇はそれぞれ1つ)

図2-5-4 家庭での備蓄量



家庭での備蓄量を聞いたところ、(1)飲料水・食料は「3~6日分」(34.4%)が3割半ば、「1週間分以上」(8.4%)が1割近くとなっており、この2つを合わせた『3日分以上』(42.8%)が4割を超えている。一方、「特にしていない」(14.6%)は1割半ばとなっている。

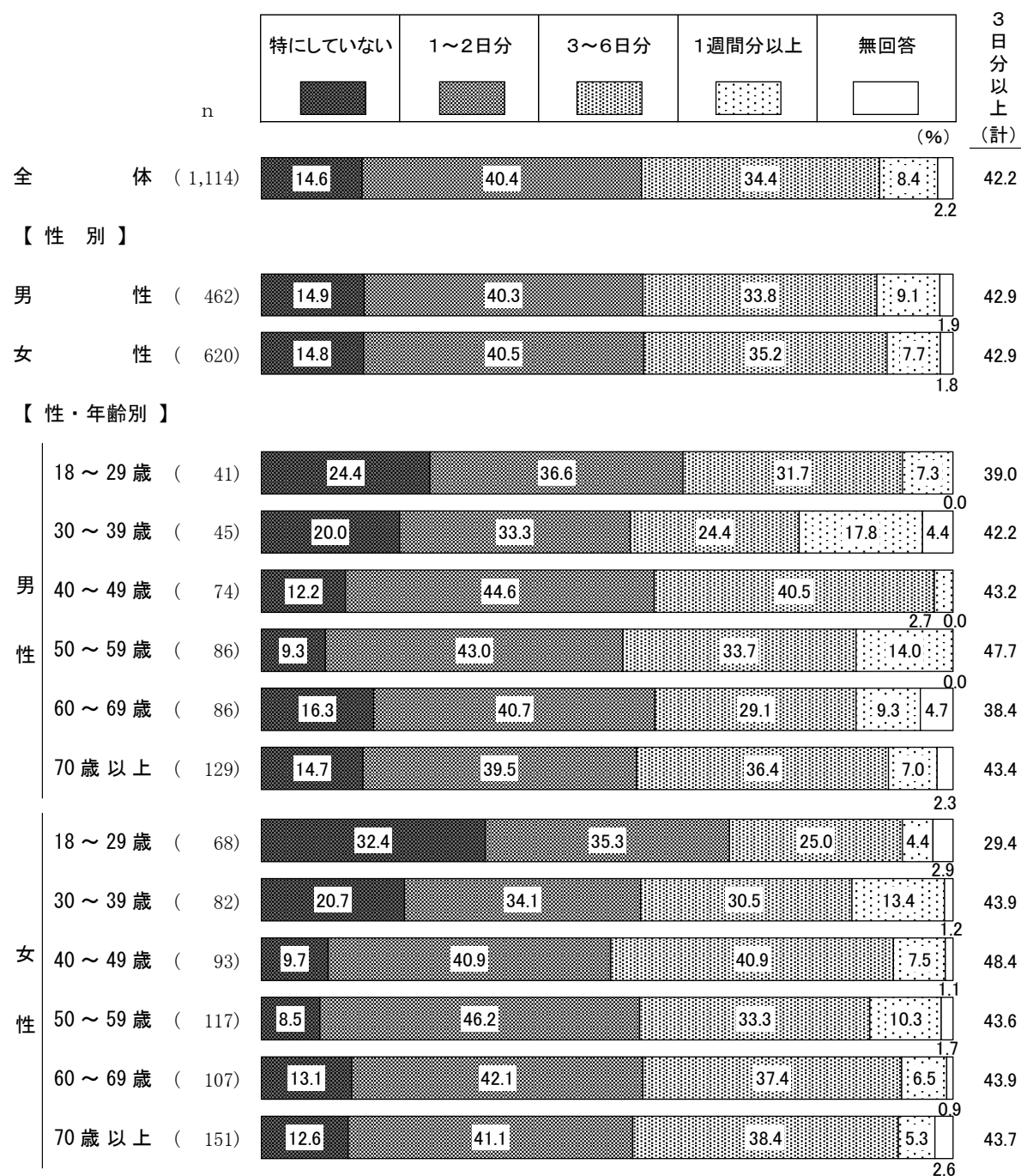
(2)携帯トイレは「1~2日分」(22.7%)が2割を超え、「3~6日分」(15.0%)が1割半ばとなっている。一方、「特にしていない」(53.1%)が5割を超えている。

(図2-5-4)



図 2-5-5 家庭での備蓄量－性別／性・年齢別

(1) 飲料水・食料

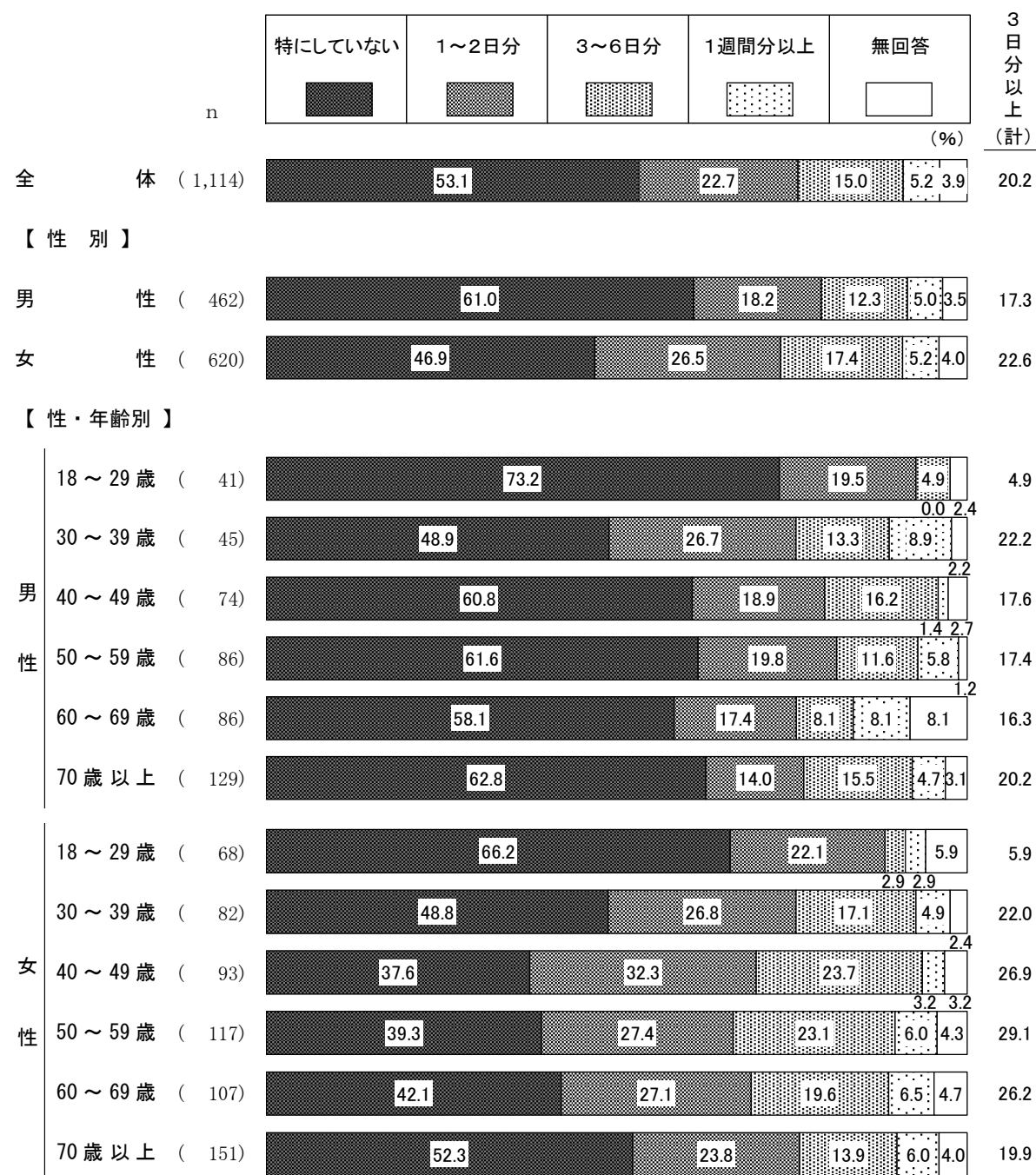


性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「1週間分以上」は男性30～39歳で2割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性18～29歳で3割を超えて多くなっている。(図2-5-5)

図2-5-6 家庭での備蓄量－性別／性・年齢別

(2) 携帯トイレ



性別にみると、「1～2日分」は女性の方が男性より8.3ポイント、「3～6日分」は5.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特にしていない」は男性の方が女性より14.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「1週間分以上」は男性30～39歳で1割近くとなっている。「3～6日分」は女性40～49歳、女性50～59歳で2割を超えている。一方、「特にしていない」は男性18～29歳で7割を超えて多くなっている。(図2-5-6)

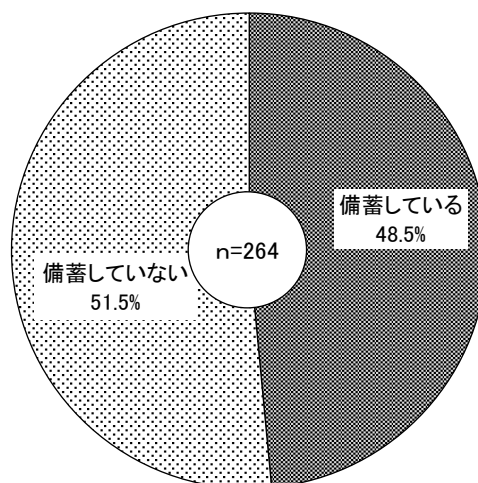
(5-2) 災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況

◇「備蓄していない」が5割を超える

【 ペットを飼っている方へ 】

問31-2 あなたは災害時にもペットと一緒に生活するために、必要な物品を備蓄していますか。(○は1つ)

図2-5-7 家災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況



ペットを飼っている方(264人)に、災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」(51.5%)が5割を超えている。(図2-5-7)

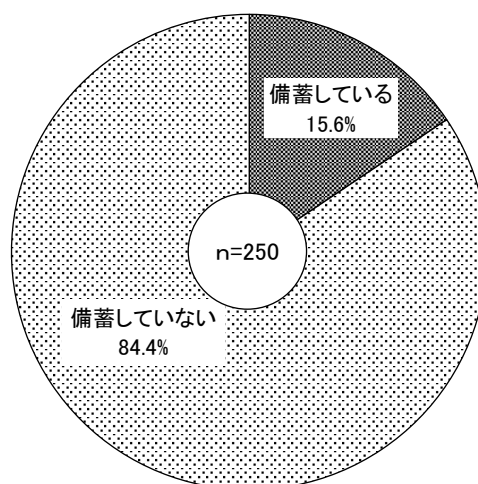
(5-3) アレルギー対応食品の備蓄状況

◇「備蓄していない」が8割半ば

【アレルギー疾患のある家族がいる方（ご自身を含む）へ】

問31-3 あなたは、アレルギー対応食品を備蓄していますか。（○は1つ）

図2-5-8 アレルギー対応食品の備蓄状況



アレルギー疾患のある家族がいる方（ご自身を含む）（250人）に、アレルギー対応食品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」（84.4%）が8割半ばとなっている。

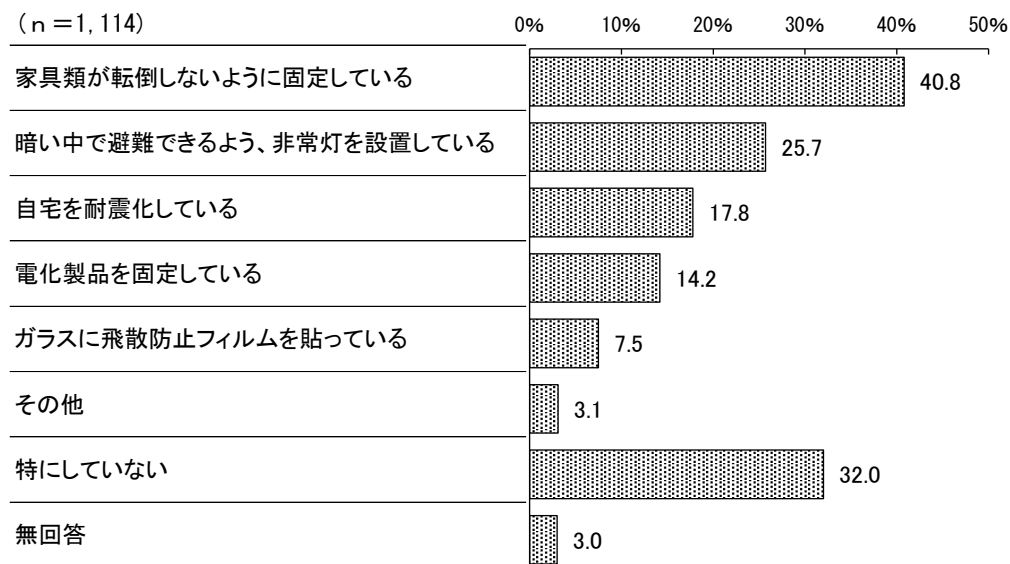
（図2-5-8）

## (6) 日頃から行っている安全対策

◇「家具類が転倒しないように固定している」が約4割

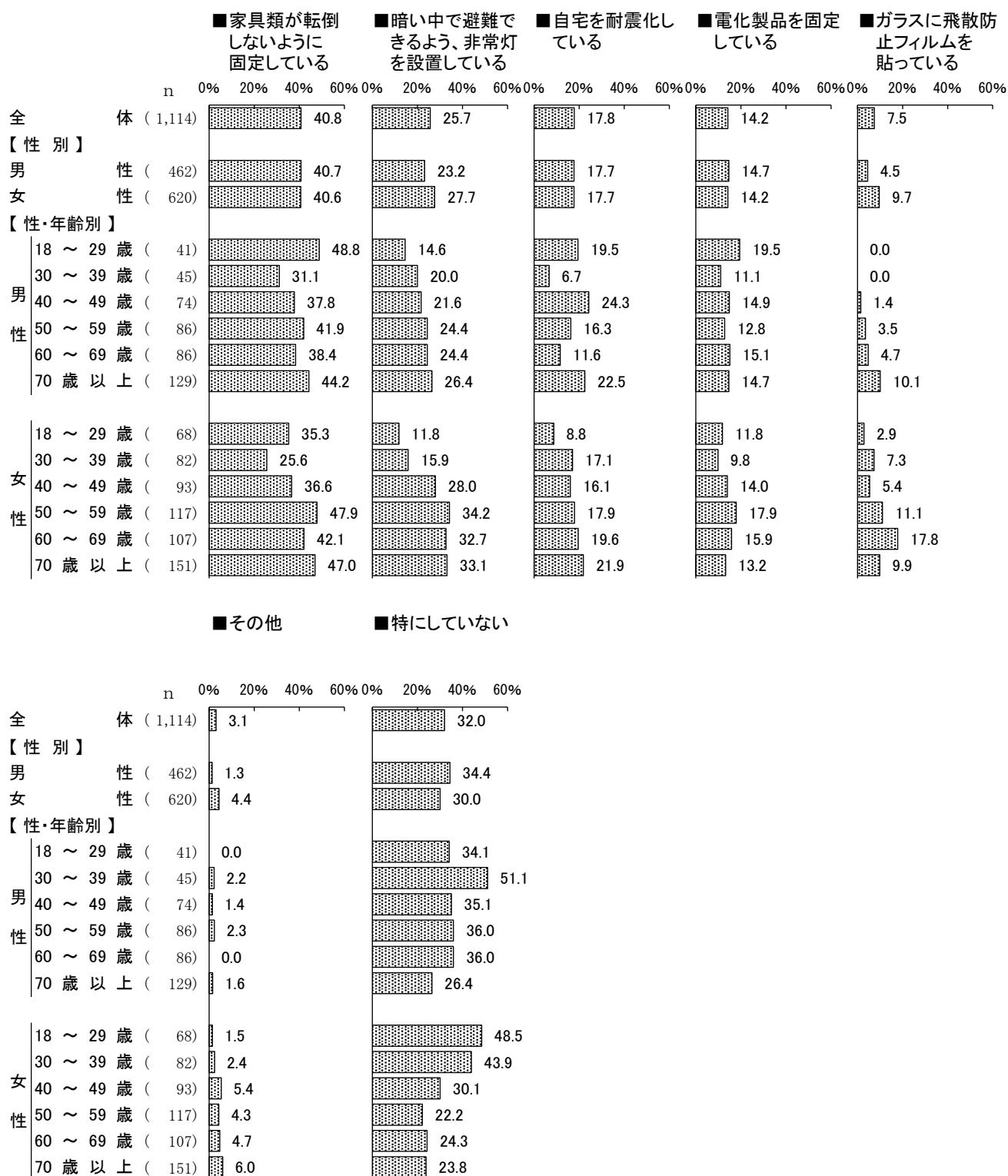
問32 地震が発生した時にケガをしないようにするため、室内の安全対策が重要です。日頃から、行っている安全対策はありますか。(〇はいくつでも)

図2-6-1 日頃から行っている安全対策



日頃から行っている安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」(40.8%)が約4割と最も多く、次いで「暗い中で避難できるよう、非常灯を設置している」(25.7%)、「自宅を耐震化している」(17.8%)、「電化製品を固定している」(14.2%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(32.0%)は3割を超えている。(図2-6-1)

図2-6-2 日頃から行っている安全対策—性別／性・年齢別



性別にみると、「ガラスに飛散防止フィルムを貼っている」は女性の方が男性より5.2ポイント、「暗い中で避難できるよう、非常灯を設置している」は4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特にない」は男性の方が女性より4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「家具類が転倒しないように固定している」は男性18～29歳、女性50～59歳、女性70歳以上で5割近くと多くなっている。「暗い中で避難できるよう、非常灯を設置している」は女性50～59歳で3割半ばと多くなっている。一方、「特にない」は男性30～39歳で5割を超えて多くなっている。(図2-6-2)

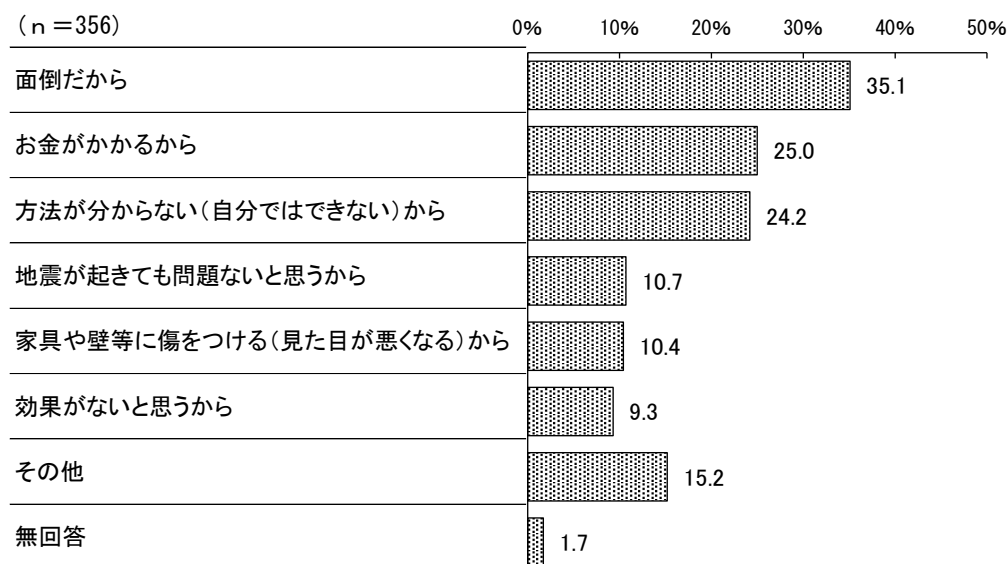
## (6-1) 安全対策をしない理由

◇「面倒だから」が3割半ば

【問32で「7 特にしていない」と回答した方へ】

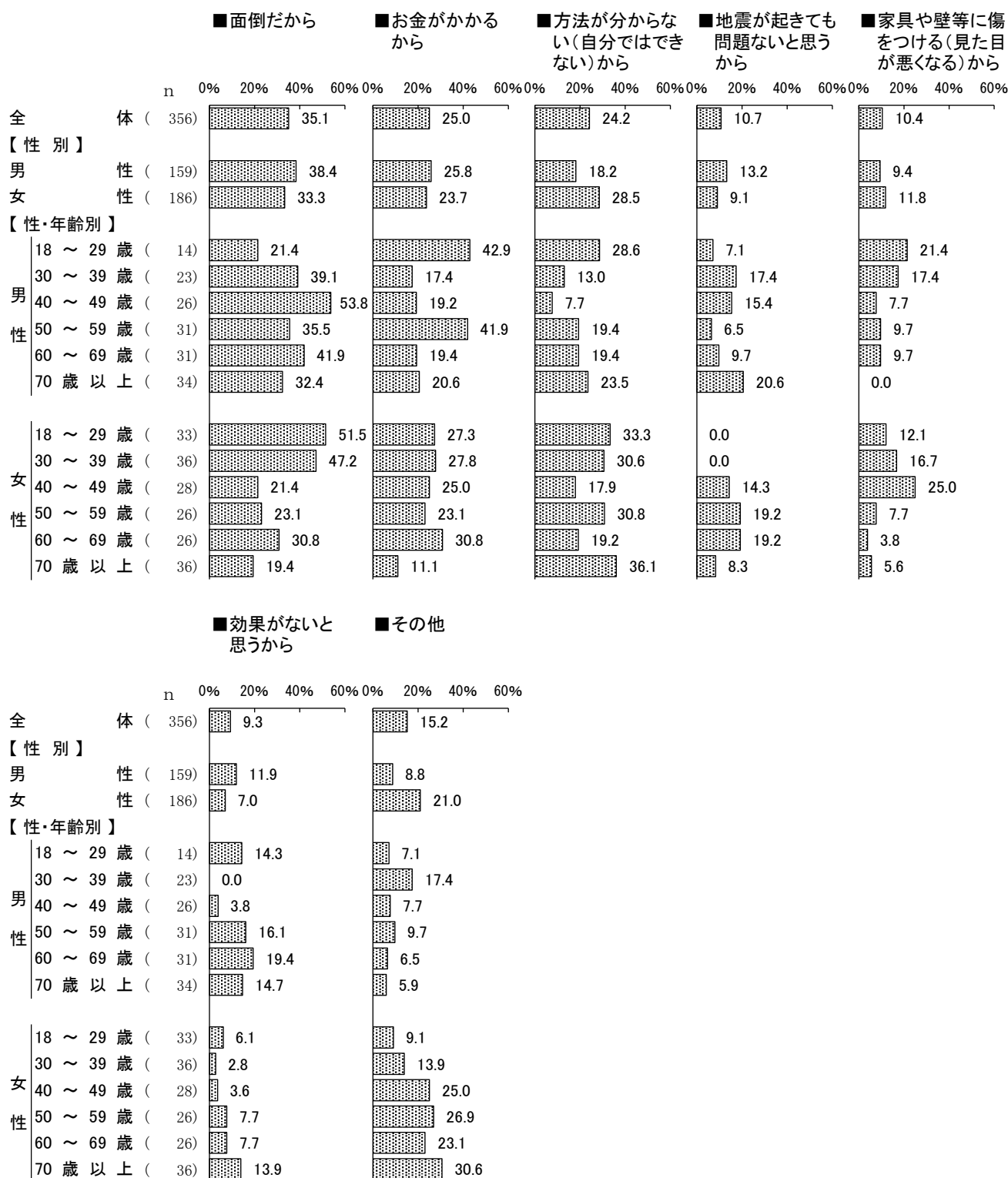
問32-1 あなたが安全対策をしない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図2-6-3 安全対策をしない理由



日頃から行っている安全対策について「特にしていない」と答えた方(356人)に、安全対策をしない理由について聞いたところ、「面倒だから」(35.1%)が3割半ばと最も多く、次いで「お金がかかるから」(25.0%)、「方法が分からない(自分ではできない)から」(24.2%)などの順となっている。(図2-6-3)

図2-6-4 安全対策をしない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「方法が分からない(自分ではできない)から」は女性の方が男性より10.3ポイント高くなっている。一方、「面倒だから」は男性の方が女性より5.1ポイント、「効果がないと思うから」が4.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。(図2-6-4)

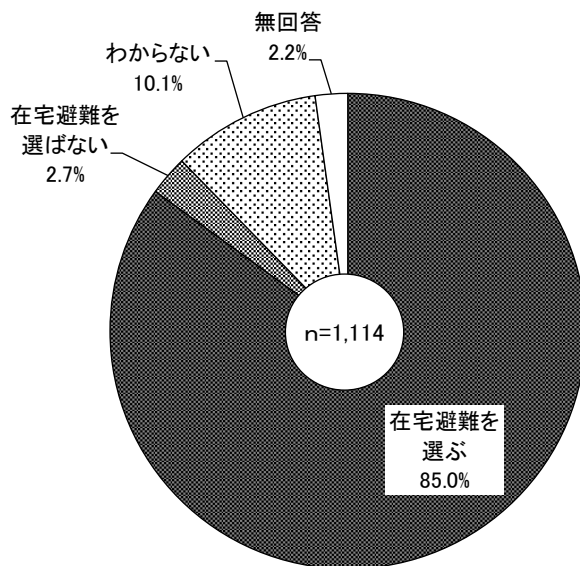


## (7) 在宅避難の選択

◇「在宅避難を選ぶ」が8割半ば

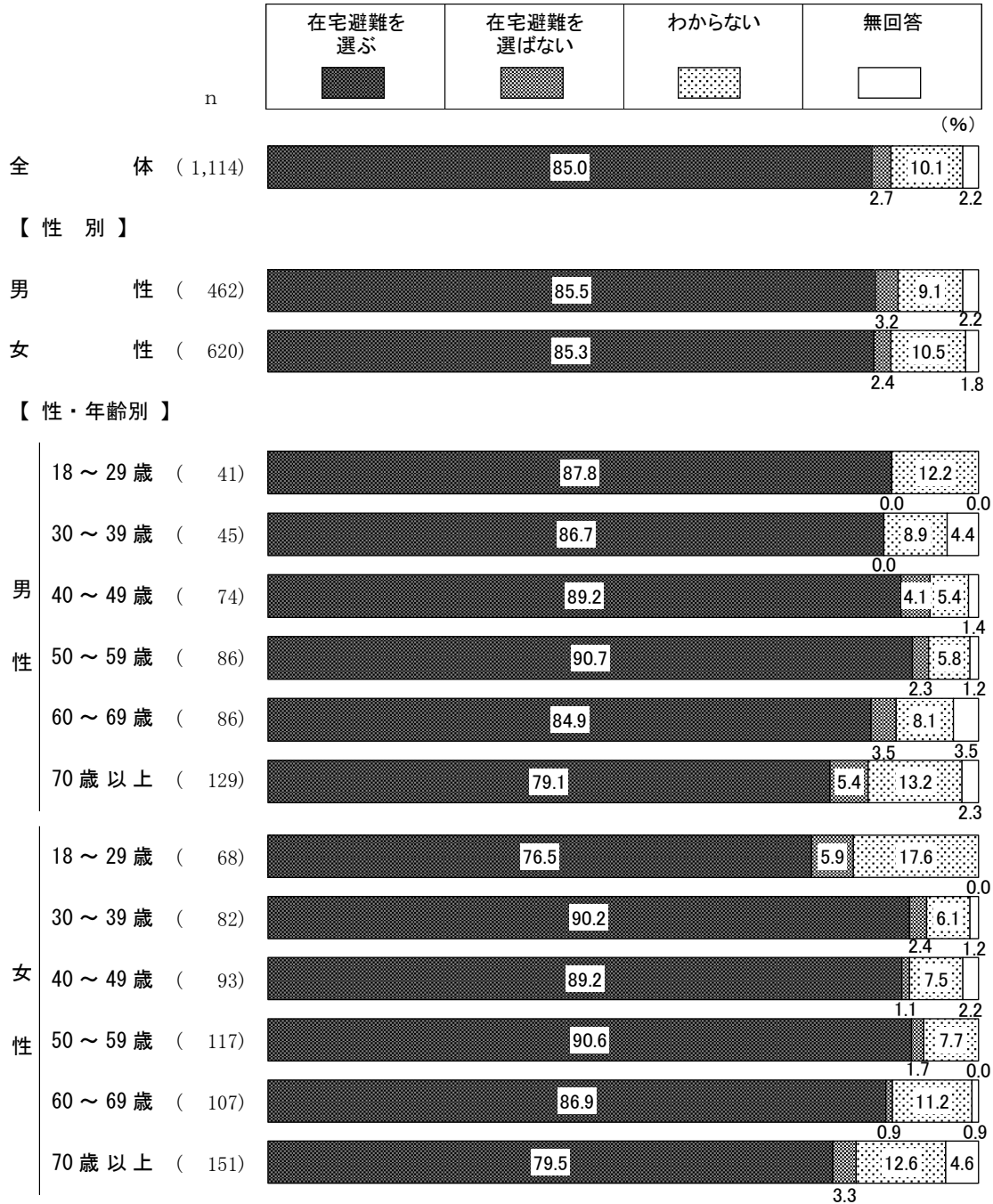
問33 大地震が起きても、自宅が安全であれば必ずしも避難拠点到避難する必要はなく、自宅で過ごす「在宅避難」を呼び掛けています。あなたは、自宅が安全であれば在宅避難を選びますか。(〇は1つ)

図2-7-1 在宅避難の選択



自宅が安全であれば在宅避難を選択するかを聞いたところ、「在宅避難を選ぶ」(85.0%)が8割半ばとなっている。(図2-7-1)

図 2-7-2 在宅避難の選択－性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「在宅避難を選ぶ」はすべての性・年齢で7割半ばを超えている。

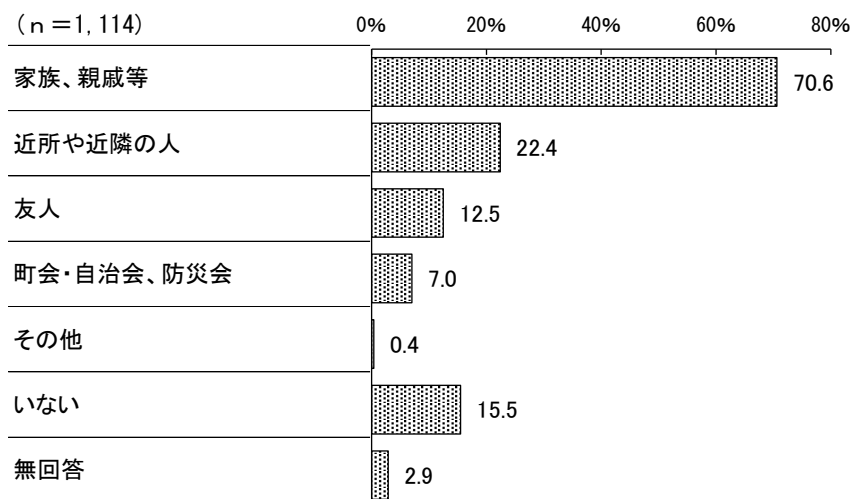
(図 2-7-2)

(8) 在宅避難をする場合に協力しあえる人

◇「家族、親戚等」が約7割

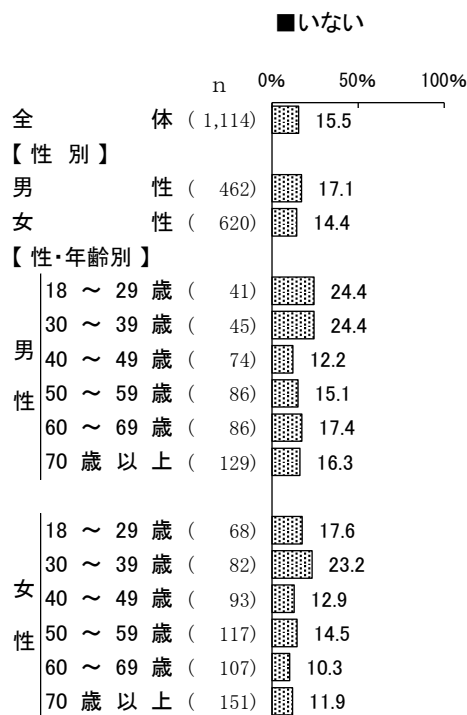
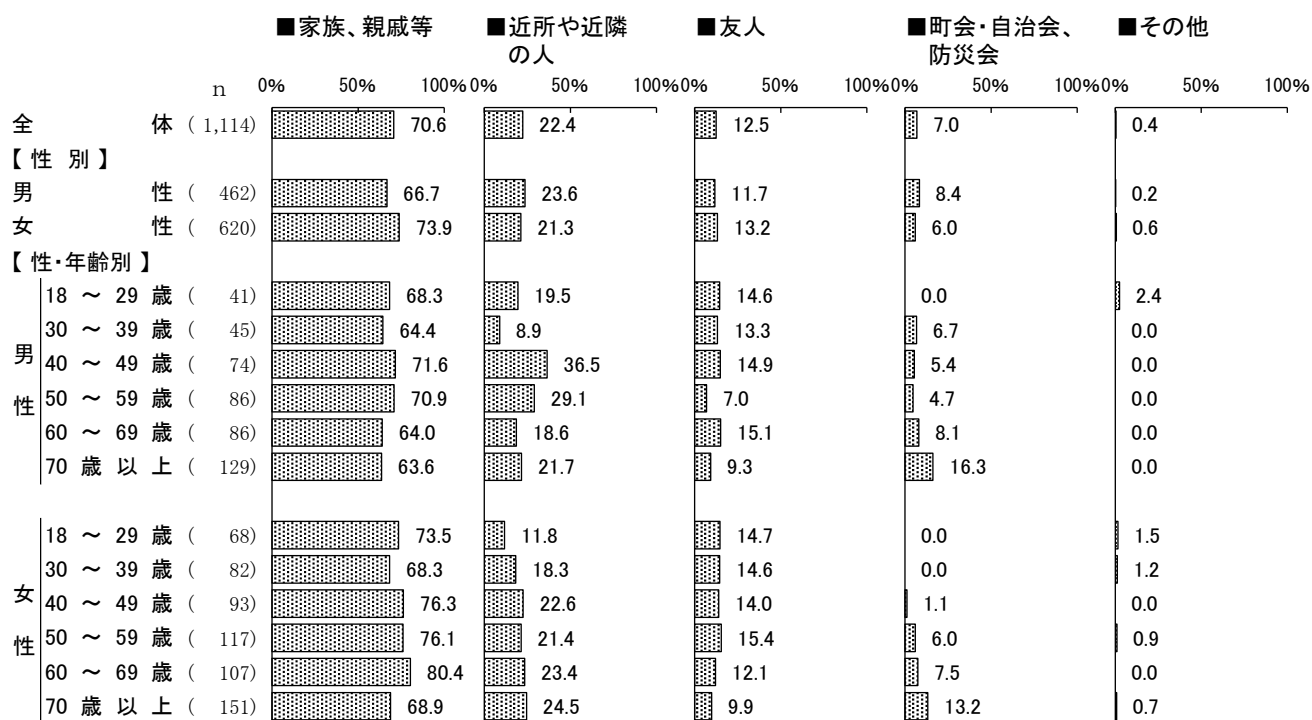
問34 在宅避難をする場合、協力しあえる人はいますか。(〇はいくつでも)

図2-8-1 在宅避難をする場合に協力しあえる人



在宅避難をする場合に協力しあえる人がいるか聞いたところ、「家族、親戚等」(70.6%)が約7割と最も多く、次いで「近所や近隣の人」(22.4%)、「友人」(12.5%)などの順となっている。一方、「いない」(15.5%)は1割半ばとなっている。(図2-8-1)

図2-8-2 在宅避難をする場合に協力しあえる人—性別／性・年齢別



性別にみると、「家族、親戚等」は女性の方が男性より7.2ポイント高くなっている。

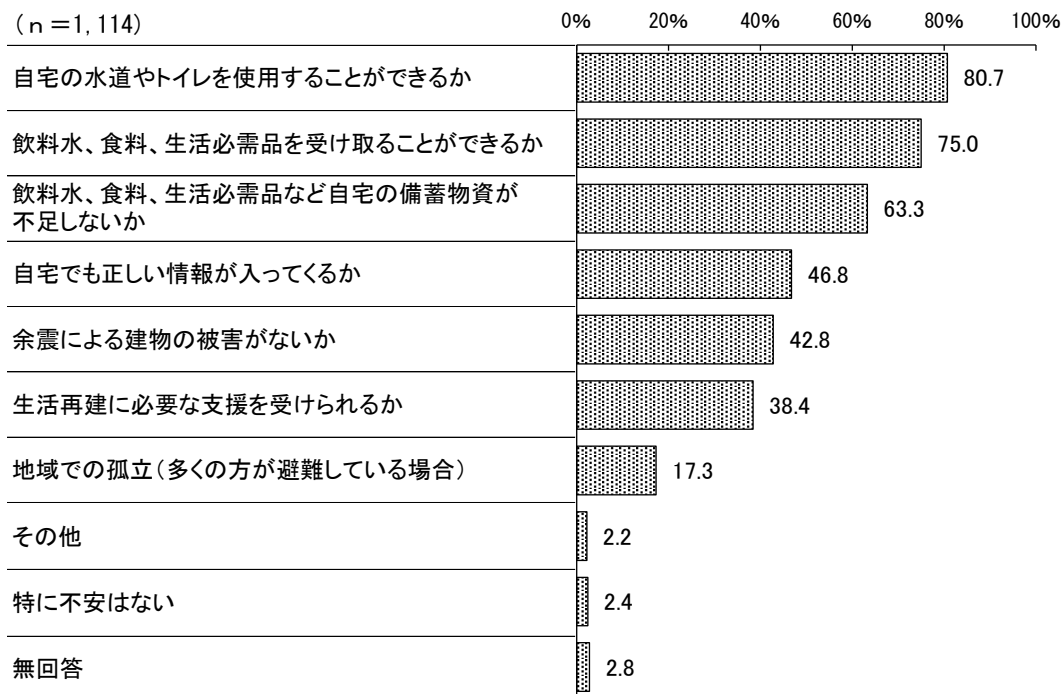
性・年齢別にみると、「家族、親戚等」は女性60～69歳で8割と多くなっている。「近所や近隣の人」は男性40～49歳で4割近くと多くなっている。(図2-8-2)

(9) 在宅避難に不安を感じていること

◇「自宅の水道やトイレを使用することができるか」が約8割

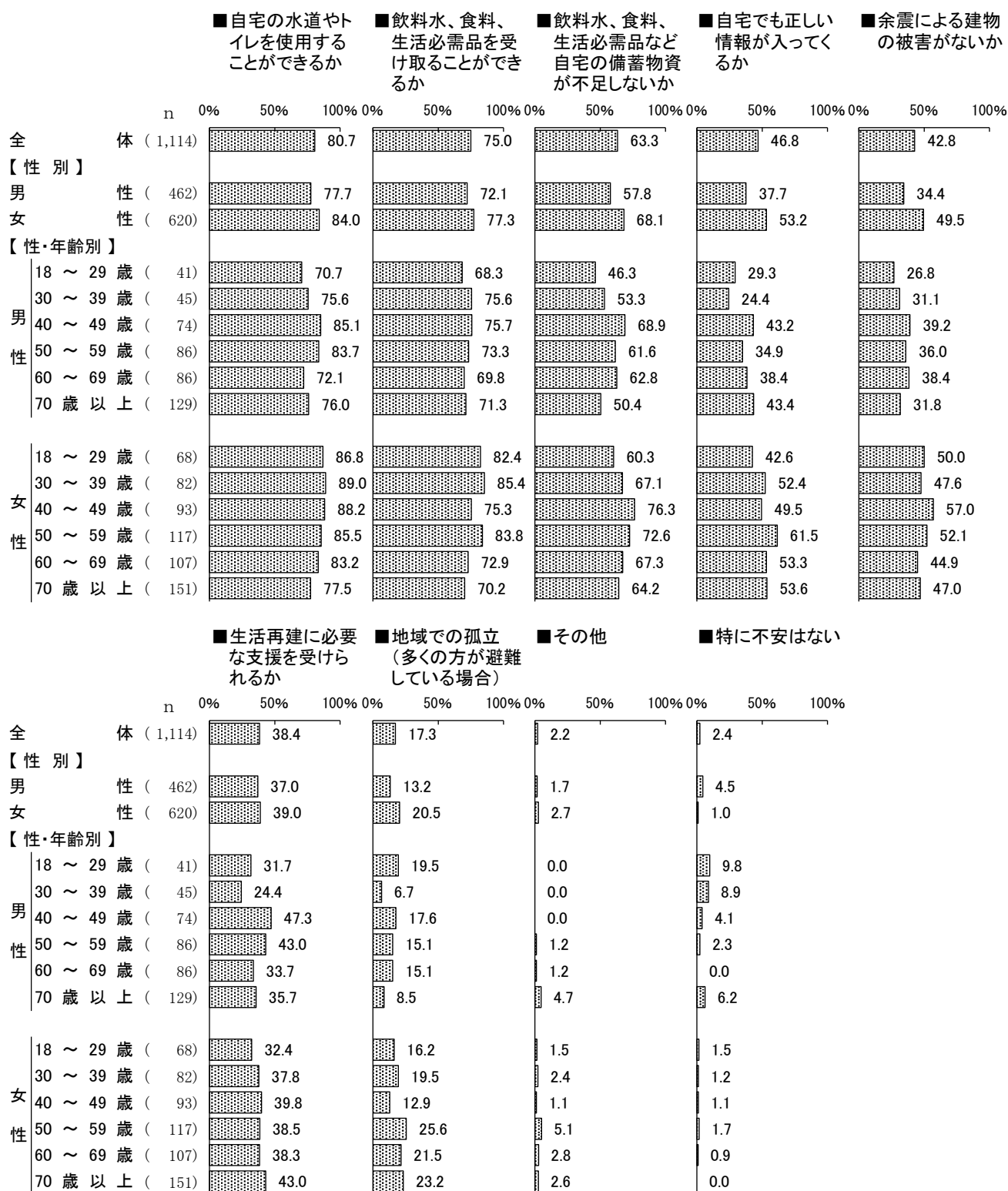
問35 在宅避難に、不安を感じていることはありますか。(〇はいくつでも)

図2-9-1 在宅避難に不安を感じていること



在宅避難に不安を感じていることについて聞いたところ、「自宅の水道やトイレを使用することができるか」(80.7%)が約8割と最も多く、次いで「飲料水、食料、生活必需品を受け取ることができるか」(75.0%)、「飲料水、食料、生活必需品など自宅の備蓄物資が不足しないか」(63.3%)、「自宅でも正しい情報が入ってくるか」(46.8%)などの順となっている。(図2-9-1)

図 2-9-2 在宅避難に不安を感じていること—性別／性・年齢別



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「自宅でも正しい情報が入ってくるか」は女性の方が男性より15.5ポイント、「余震による建物の被害がないか」は15.1ポイント、「飲料水、食料、生活必需品など自宅の備蓄物資が不足しないか」は10.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「飲料水、食料、生活必需品など自宅の備蓄物資が不足しないか」は女性40～49歳で7割半ばと多くなっている。「自宅でも正しい情報が入ってくるか」は女性50～59歳で6割を超えて多くなっている。(図2-9-2)

(10) 中高層住宅特有の被害で知っていること

◇「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」が8割近く

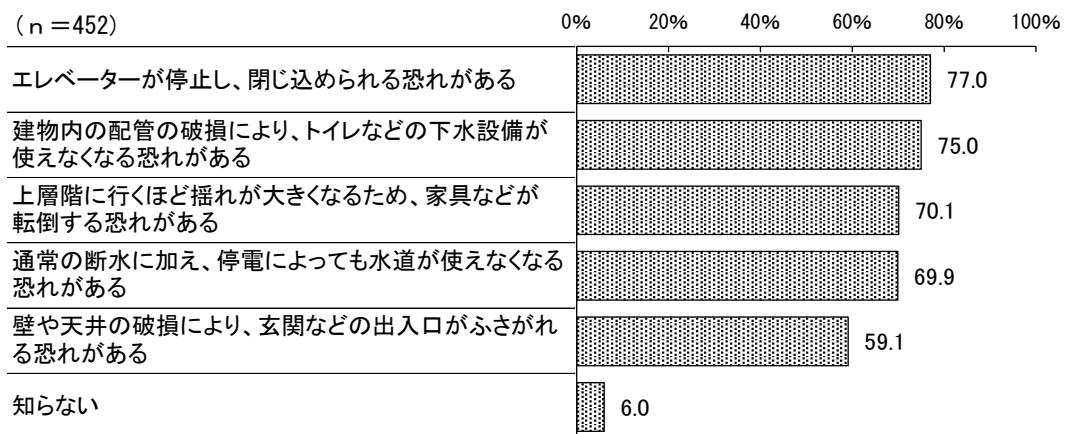
【 中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方へ 】

問36 中高層住宅では、一般的に耐震性や耐火性に優れ、比較的地震に強いとされています。一方で、長周期地震動によって上層階では揺れが大きくなり、中高層住宅特有の被害が生じる恐れもあります。

次の中高層住宅特有の被害のうち、あなたが知っているものを選んでください。  
(○はいくつでも)

※ご自身が1・2階にお住まいでも、建物自体が3階建て以上の場合はご回答ください。

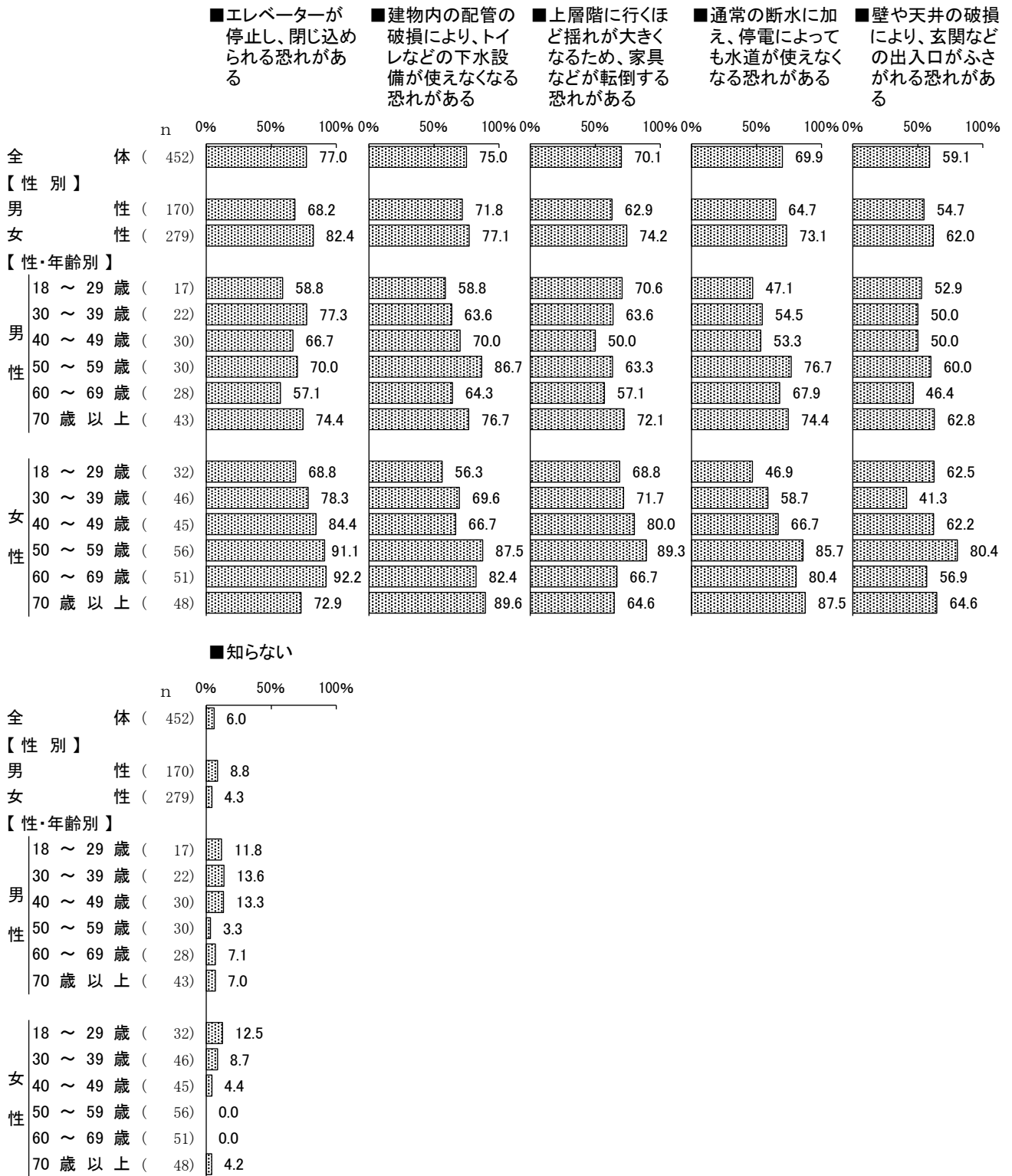
図2-10-1 中高層住宅特有の被害で知っていること



中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（452人）に、中高層住宅特有の被害で知っていることについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」（77.0%）が8割近くと最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」（75.0%）、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」（70.1%）などの順となっている。

(図2-10-1)

図2-10-2 中高層住宅特有の被害で知っていること－性別／性・年齢別



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」は女性の方が男性より14.2ポイント、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」は11.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」は女性50～59歳、女性60～69歳で9割を超えて多くなっている。「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」は女性70歳以上で9割と多くなっている。また、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」は女性50～59歳で約9割と多くなっている。(図2-10-2)



## (11) 住まいの中高層住宅で行っている対策

◇「特にしていない（知らない）」が7割近く

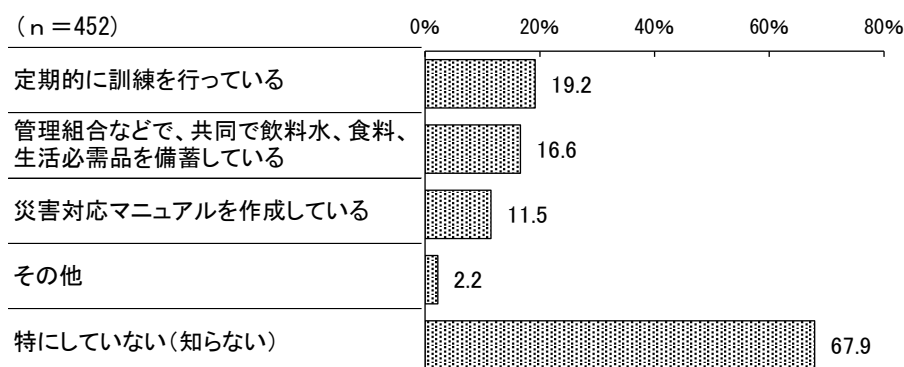
### 【 中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方へ 】

問37 お住まいの中高層住宅で行っている対策を選んでください。（〇はいくつでも）

※あなた自身が行っているものに限らず、管理組合、管理会社、住人有志で行っているもの等も含めてご回答ください。

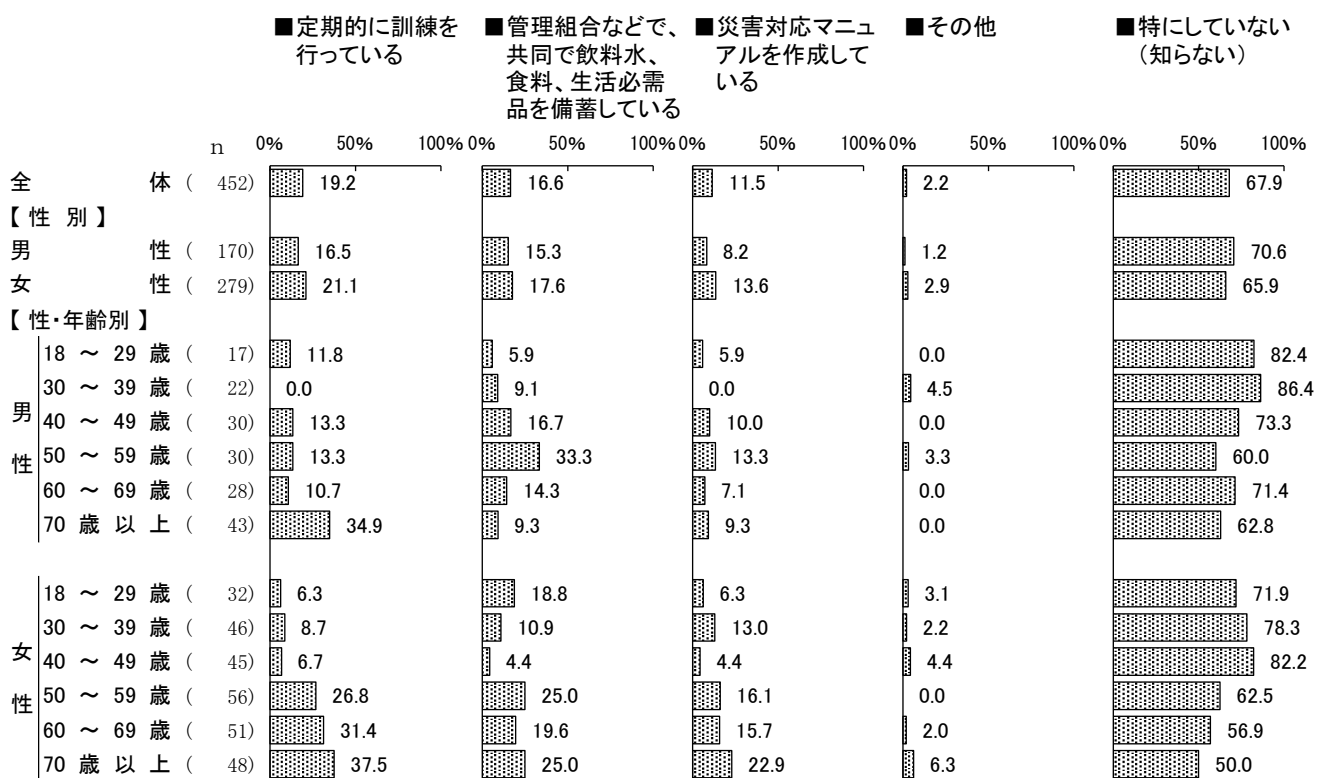
※ご自身が1・2階にお住まいでも、建物自体が3階建て以上の場合はご回答ください。

図2-11-1 住まいの中高層住宅で行っている対策



中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（452人）に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的に訓練を行っている」（19.2%）が約2割、「管理組合などで、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」（16.6%）が2割近くとなっている。一方、「特にしていない（知らない）」（67.9%）は7割近くとなっている。（図2-11-1）

図2-11-2 住まいの中高層住宅で行っている対策—性別／性・年齢別



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「災害対応マニュアルを作成している」は女性の方が男性より5.4ポイント、「定期的な訓練を行っている」は4.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特にしていない(知らない)」は男性の方が女性より4.7ポイント高くなっている。

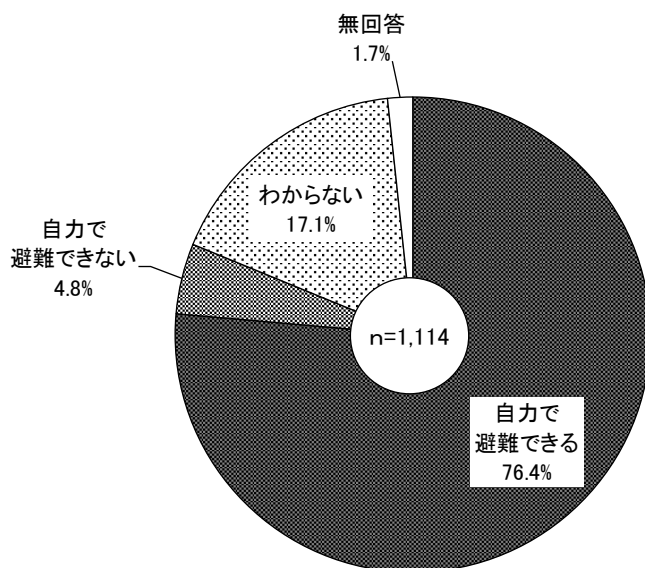
性・年齢別にみると、「定期的な訓練を行っている」は女性70歳以上で4割近くと多くなっている。「管理組合などで、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」は男性50～59歳で3割を超えて多くなっている。(図2-11-2)

(12) 災害発生時の自力での避難の可否

◇「自力で避難できる」が7割半ば

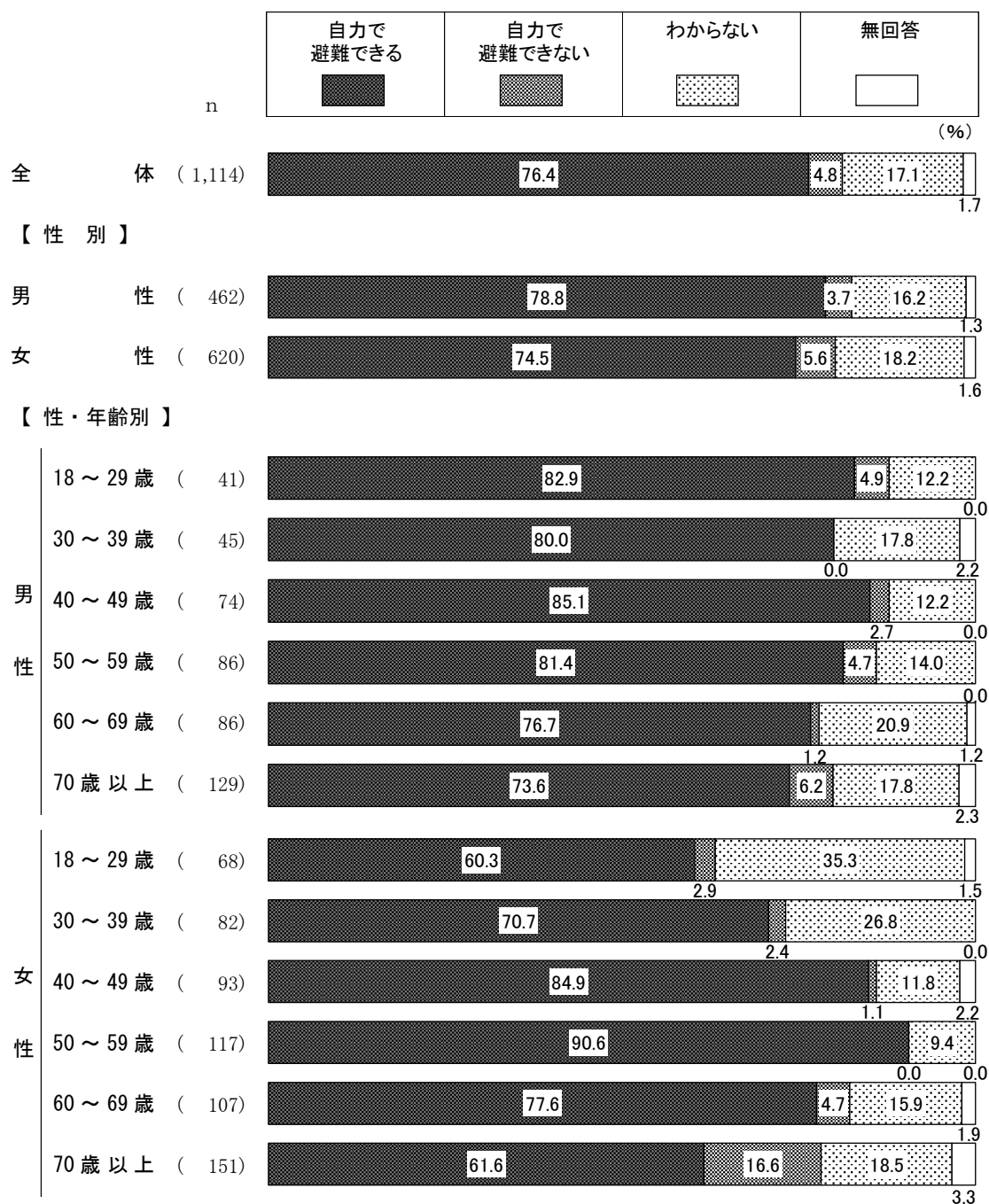
問38 災害発生時、あなたは自力で避難することができますか。(○は1つ)

図2-12-1 災害発生時の自力での避難の可否



災害発生時に自力で避難ができるかを聞いたところ、「自力で避難できる」(76.4%)が7割半ばと最も多くなっている。(図2-12-1)

図 2-12-2 災害発生時の自力での避難の可否—性別／性・年齢別



性別にみると、「自力で避難できる」は男性の方が女性より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「自力で避難できる」は女性50～59歳で約9割と多くなっている。一方、「自力で避難できない」は女性70歳以上で2割近くと多くなっている。また、「わからない」は女性18～29歳で3割半ばと多くなっている。(図2-12-2)

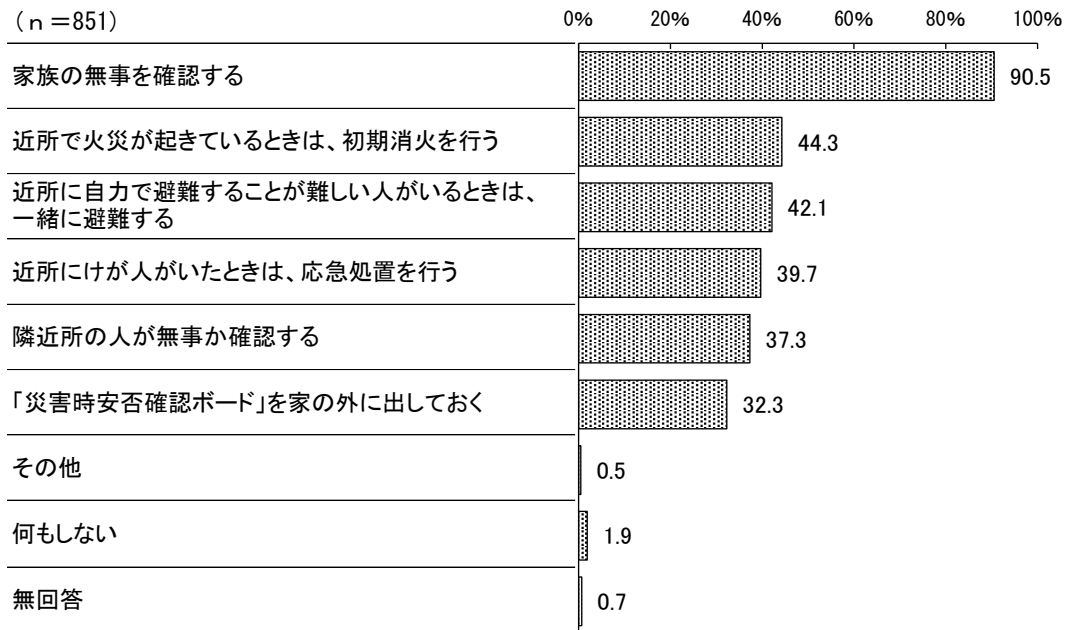
(12-1) 自力で避難するときの行動

◇「家族の無事を確認する」が約9割

【問38で「1 自力で避難できる」と答えた方へ】

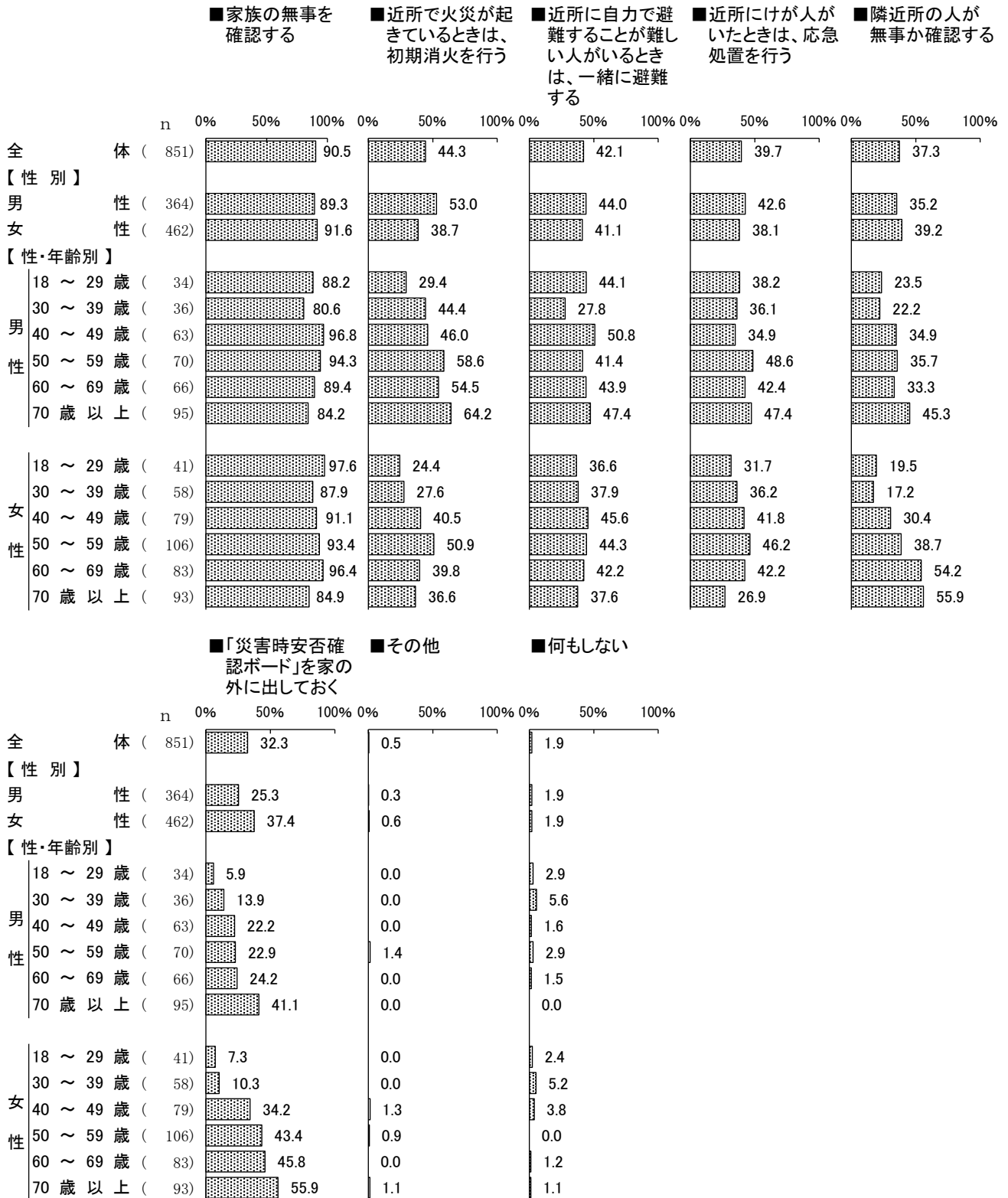
問38-1 避難するときに、どのような行動をしますか。(〇はいくつでも)

図2-12-3 自力で避難するときの行動



災害発生時に「自力で避難ができる」と答えた人(851人)に、避難するときにどのような行動をするかを聞いたところ、「家族の無事を確認する」(90.5%)が約9割と最も多く、次いで「近所で火災が起きているときは、初期消火を行う」(44.3%)、「近所に自力で避難することが難しい人がいるときは、一緒に避難する」(42.1%)、「近所にけが人がいたときは、応急処置を行う」(39.7%)などの順となっている。(図2-12-3)

図2-12-4 自力で避難するときの行動—性別／性・年齢別



性別にみると、「近所で火災が起きているときは、初期消火を行う」は男性の方が女性より14.3ポイント、「近所にけが人がいたときは、応急処置を行う」は4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「『災害時安否確認ボード』を家の外に出しておく」は女性の方が男性より12.1ポイント、「隣近所の人が無事か確認する」は4.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「近所で火災が起きているときは、初期消火を行う」は男性70歳以上で6割半ばと多くなっている。「近所に自力で避難することが難しい人がいるときは、一緒に避難する」は男性40～49歳で約5割と多くなっている。(図2-12-4)

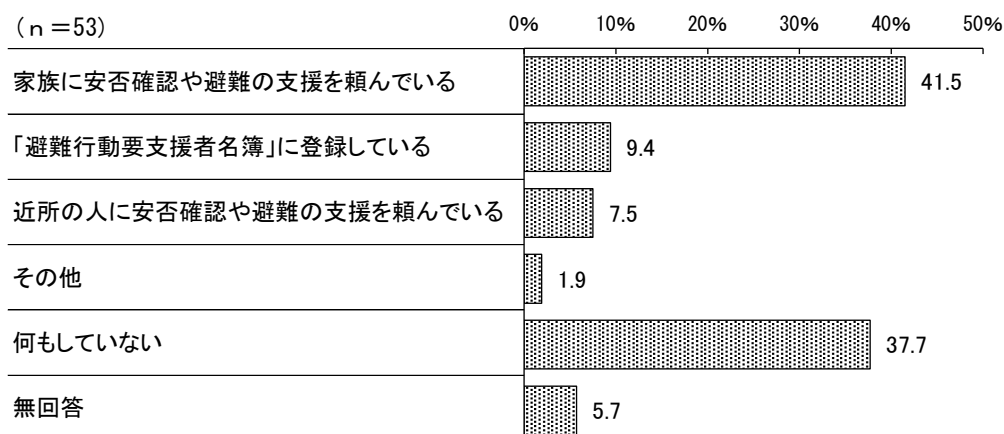
(12-2) もしもの時に避難できるようにするために備えていること

◇「家族に安否確認や避難の支援を頼んでいる」が4割を超える

【問38で「2 自力で避難できない」と答えた方へ】

問38-2 もしもの時に避難できるようにするため、あなたが備えていることはありますか。(〇はいくつでも)

図2-12-5 もしもの時に避難できるようにするために備えていること



災害発生時に「自力で避難ができない」と答えた人(53人)に、もしもの時に避難できるようにするために備えていることを聞いたところ、「家族に安否確認や避難の支援を頼んでいる」(41.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「『避難行動要支援者名簿』に登録している」(9.4%)となっている。一方、「何もしていない」(37.7%)は4割近くとなっている。

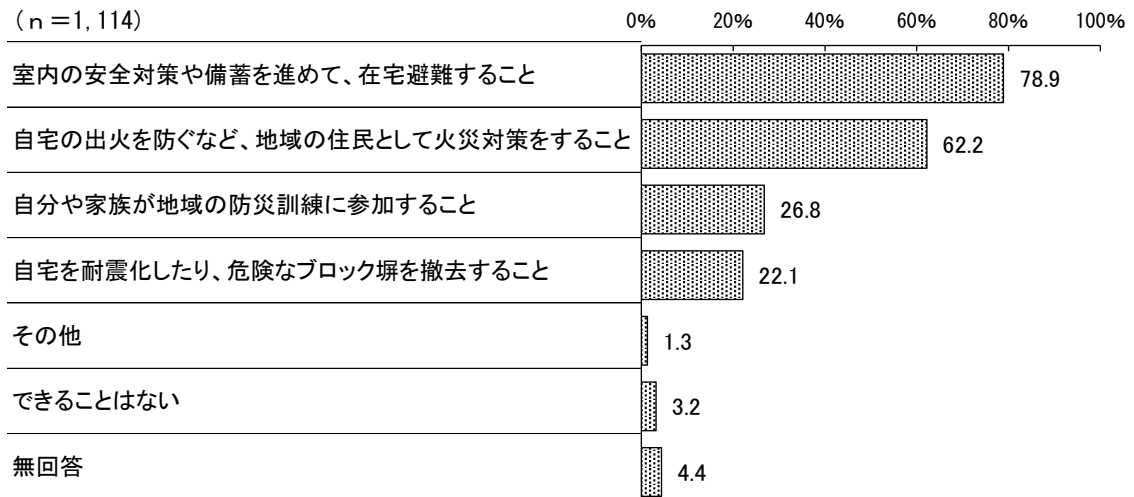
(図2-12-5)

(13) 自分のまちを守るためにできること

◇「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」が8割近く

問39 災害に強いまちづくりを進めるためには、区の実施に加え、区民一人ひとりの協力が欠かせません。自分のまちを守るため、あなたはどのようなことができると思いますか。（〇はいくつでも）

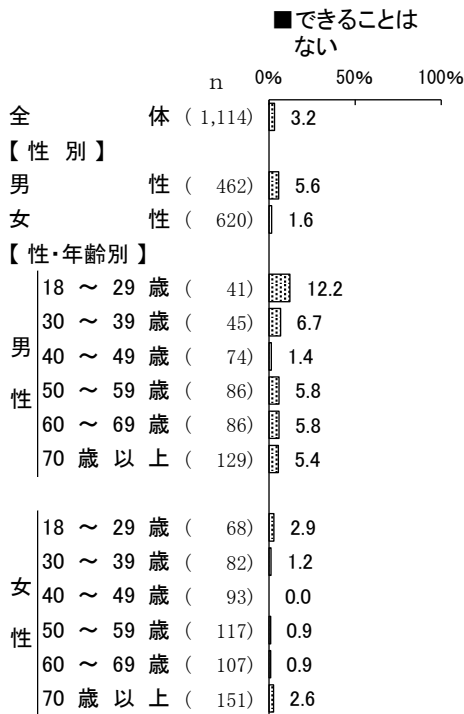
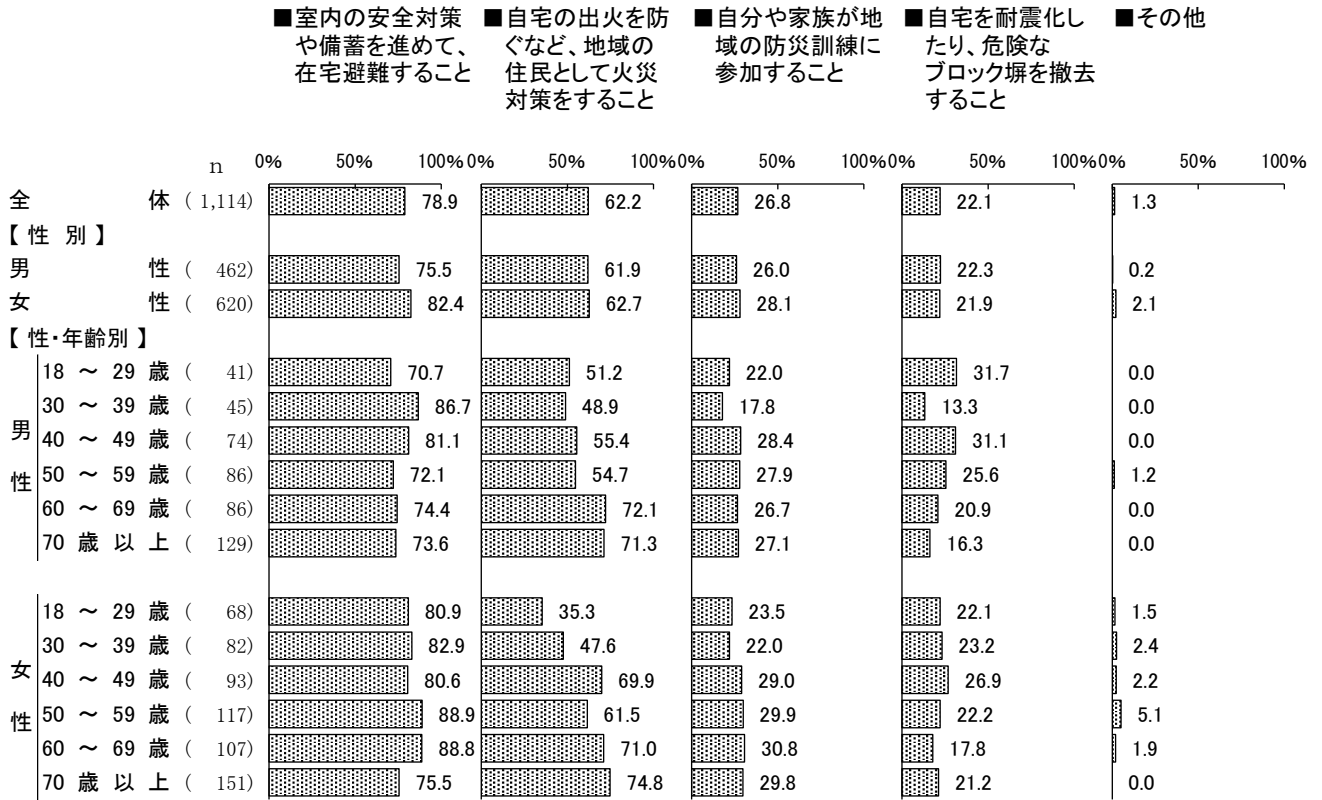
図2-13-1 自分のまちを守るためにできること



自分のまちを守るためにできることについて聞いたところ、「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」（78.9%）が8割近くと最も多く、次いで「自宅の出火を防ぐなど、地域の住民として火災対策をすること」（62.2%）、「自分や家族が地域の防災訓練に参加すること」（26.8%）などの順となっている。（図2-13-1）



図2-13-2 自分のまちを守るためにできること－性別／性・年齢別



性別にみると、「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」は女性の方が男性より6.9ポイント高くなっている。

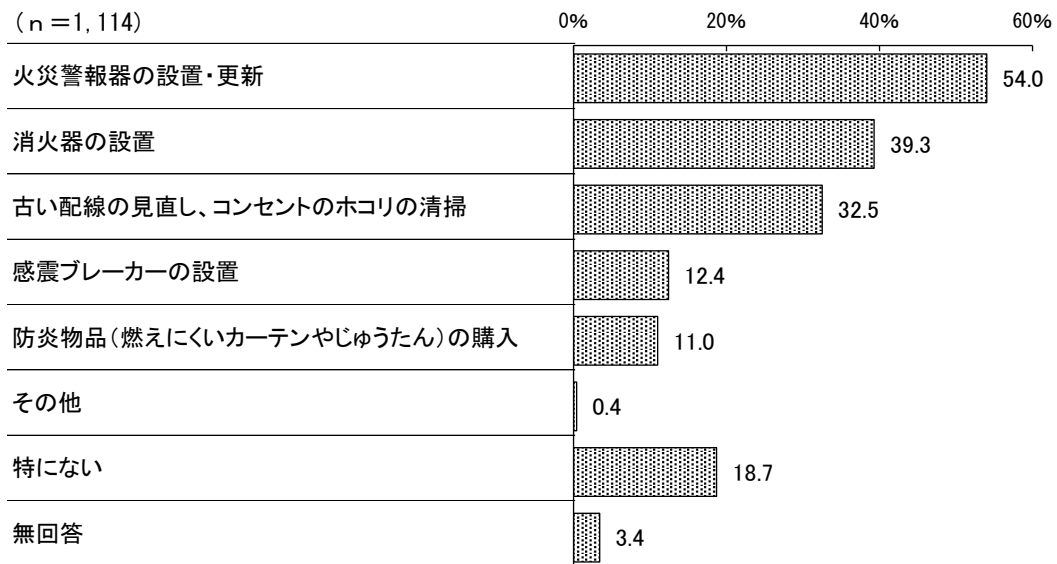
性・年齢別にみると、「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」は男性30～39歳、女性50～59歳、60～69歳で9割近くと多くなっている。「自宅の出火を防ぐなど、地域の住民として火災対策をすること」は女性70歳以上で7割半ばと多くなっている。(図2-13-2)

(14) 自宅で行っている火災対策

◇「火災警報器の設置・更新」が5割半ば

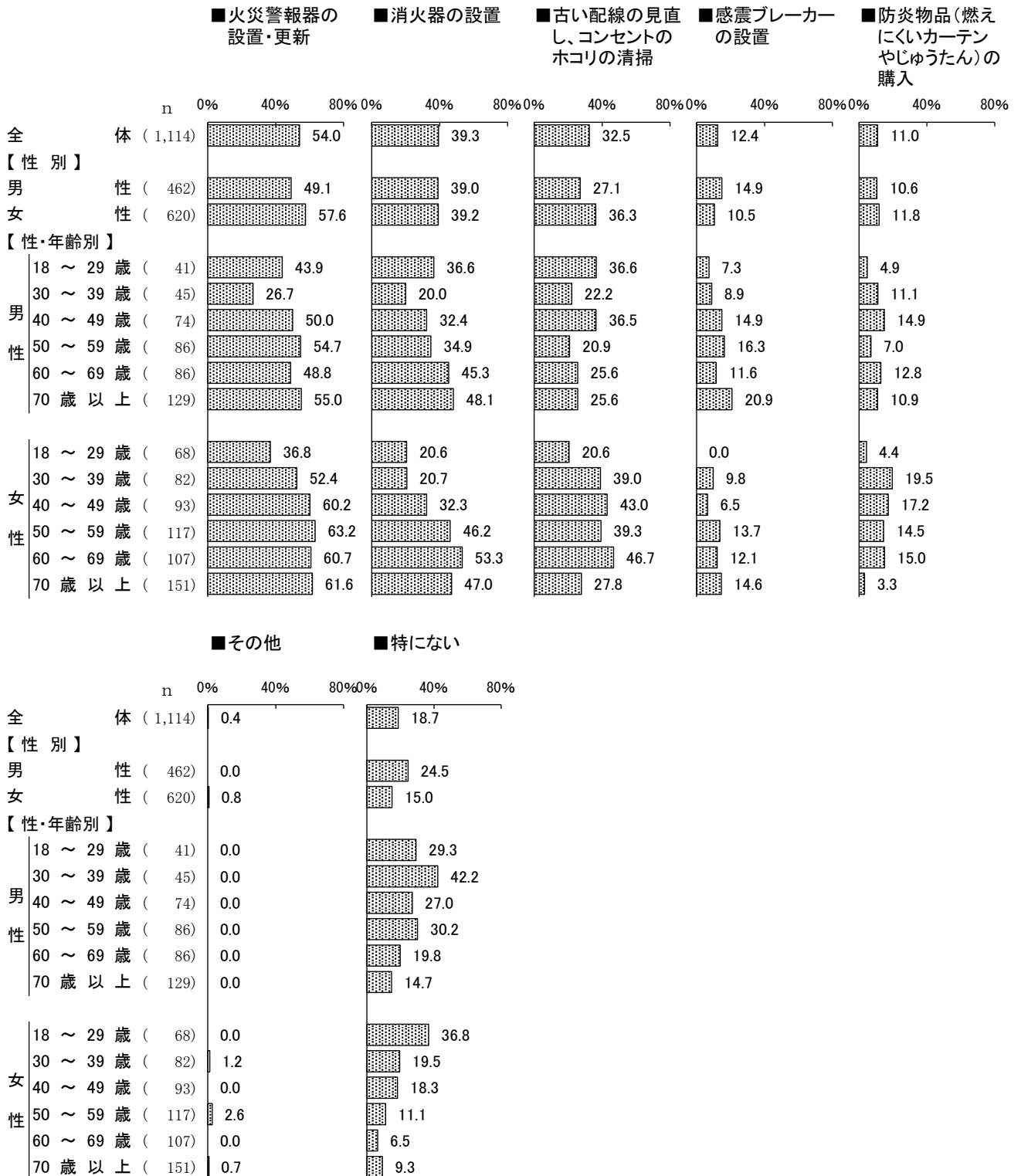
問40 あなたは、自宅で行っている火災対策はありますか。(〇はいくつでも)

図2-14-1 自宅で行っている火災対策



自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」(54.0%)が5割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」(39.3%)、「古い配線の見直し、コンセントのホコリの清掃」(32.5%)、「感震ブレーカーの設置」(12.4%)などの順となっている。(図2-14-1)

図2-14-2 自宅で行っている火災対策—性別／性・年齢別



性別にみると、「古い配線の見直し、コンセントのホコリの清掃」は女性の方が男性より9.2ポイント、「火災警報器の設置・更新」は8.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特にない」は男性の方が女性より9.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「火災警報器の設置・更新」は女性50～59歳、女性70歳以上で6割を超えて多くなっている。「消火器の設置」は女性60～69歳で5割を超えて多くなっている。また、「古い配線の見直し、コンセントのホコリの清掃」は女性60～69歳で5割近くと多くなっている。

(図2-14-2)

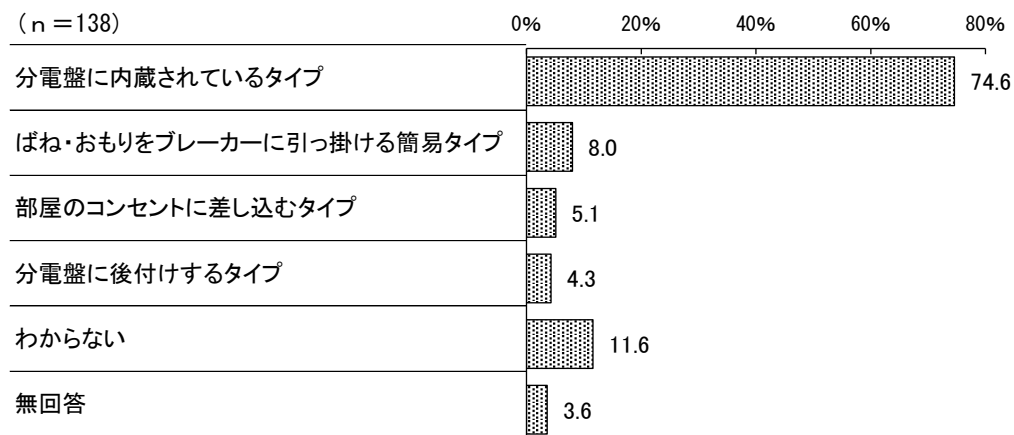
### (14-1) 感震ブレーカーの設置タイプ

◇「分電盤に内蔵されているタイプ」が7割半ば

【問40で「4 感震ブレーカーの設置」と答えた方へ】

問40-1 感震ブレーカーは様々なタイプがありますが、どのようなタイプを設置していますか。(〇はいくつでも)

図2-14-3 感震ブレーカーの設置タイプ



自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えた人(138人)に、感震ブレーカーの設置タイプを聞いたところ、「分電盤に内蔵されているタイプ」(74.6%)が7割半ばと最も多く、次いで「ばね・おもりをブレーカーに引っ掛ける簡易タイプ」(8.0%)、「部屋のコンセントに差し込むタイプ」(5.1%)などの順となっている。(図2-14-3)

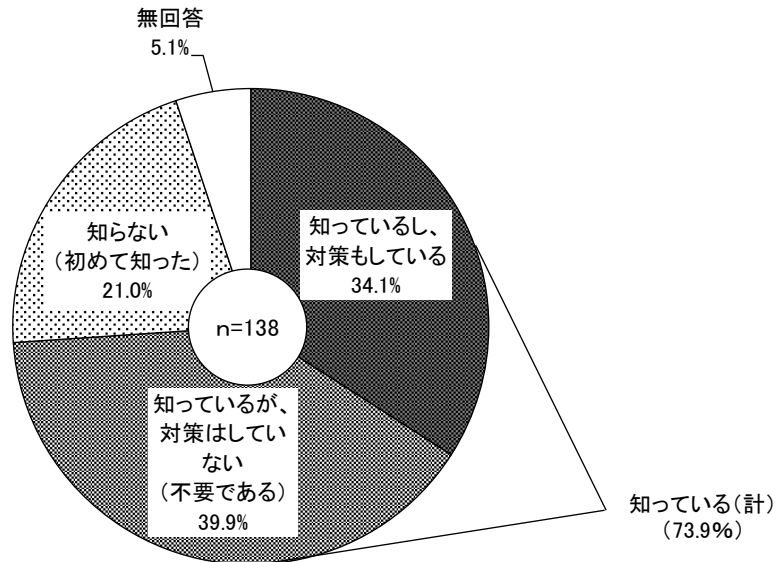
(14-2) 感震ブレーカー作動時や復旧時の注意点の認知と対策

◇『知っている』が7割を超える

【問40で「4 感震ブレーカーの設置」と答えた方へ】

問40-2 感震ブレーカーが作動すると、家の中が真っ暗になることや、電気が必要な医療機器等が使えなくなることなどに注意が必要です。また、復旧させる場合、各部屋の電気機器等の安全確認をした上で復旧させることが重要です。これらの注意点について知っていますか。(○は1つ)

図2-14-4 感震ブレーカー作動時や復旧時の注意点の認知と対策



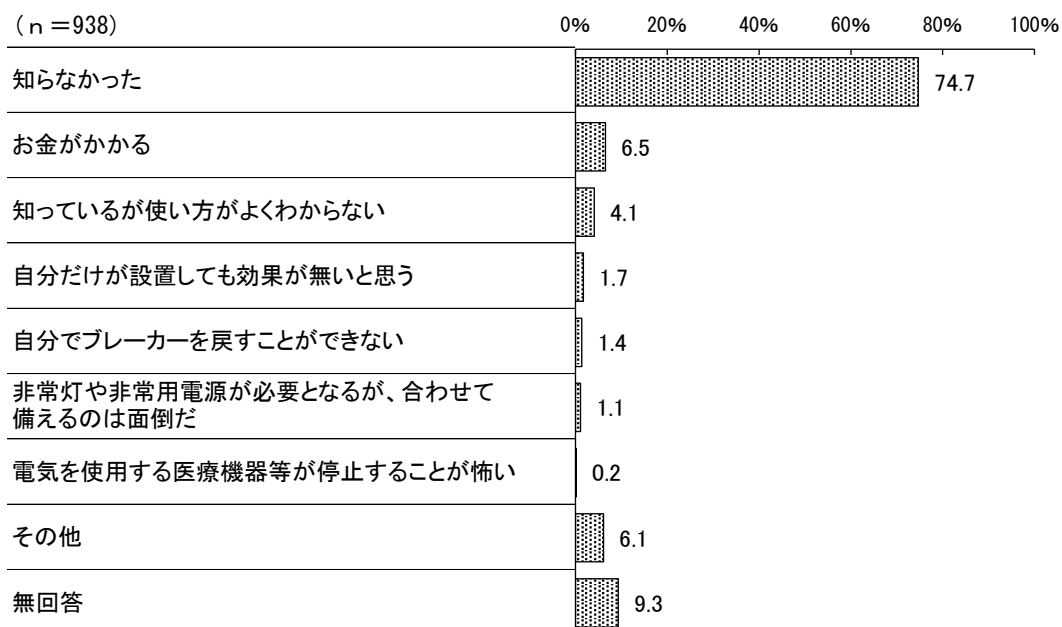
自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えた方(138人)に、感震ブレーカー作動時や復旧時の注意点の認知と対策を聞いたところ、「知っているし、対策もしている」(34.1%)が3割半ば、「知っているが、対策はしていない(不要である)」(39.9%)が4割となっており、この2つを合わせた『知っている』(73.9%)が7割を超えている。一方、「知らない(初めて知った)」(21.0%)は2割を超えている。(図2-14-4)

### (14-3) 感震ブレーカーを設置していない理由

◇「知らなかった」が7割半ば

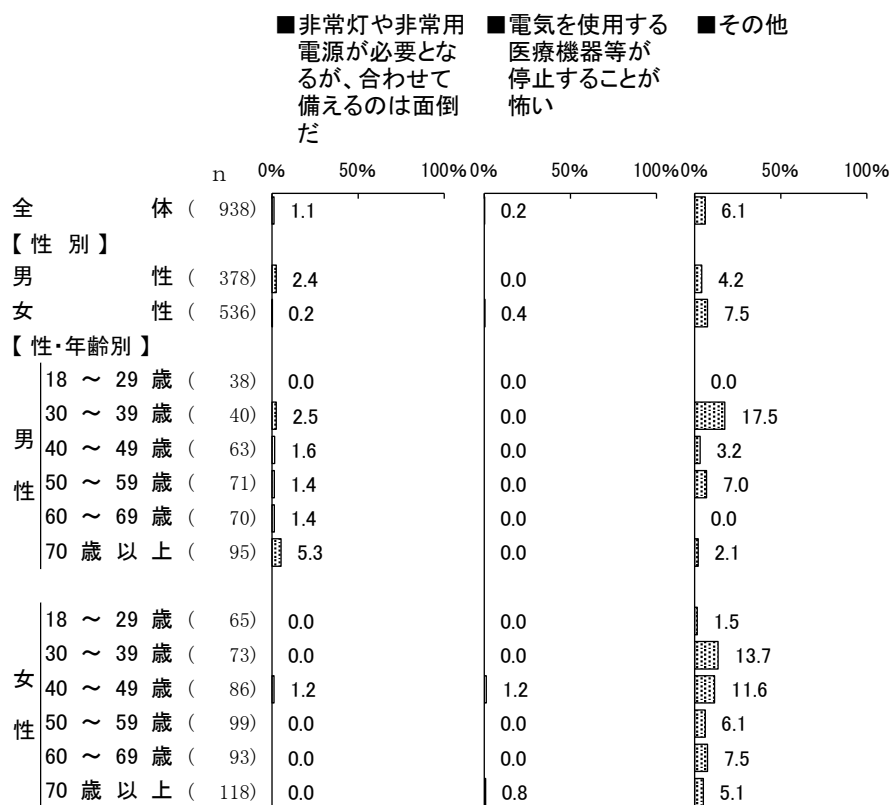
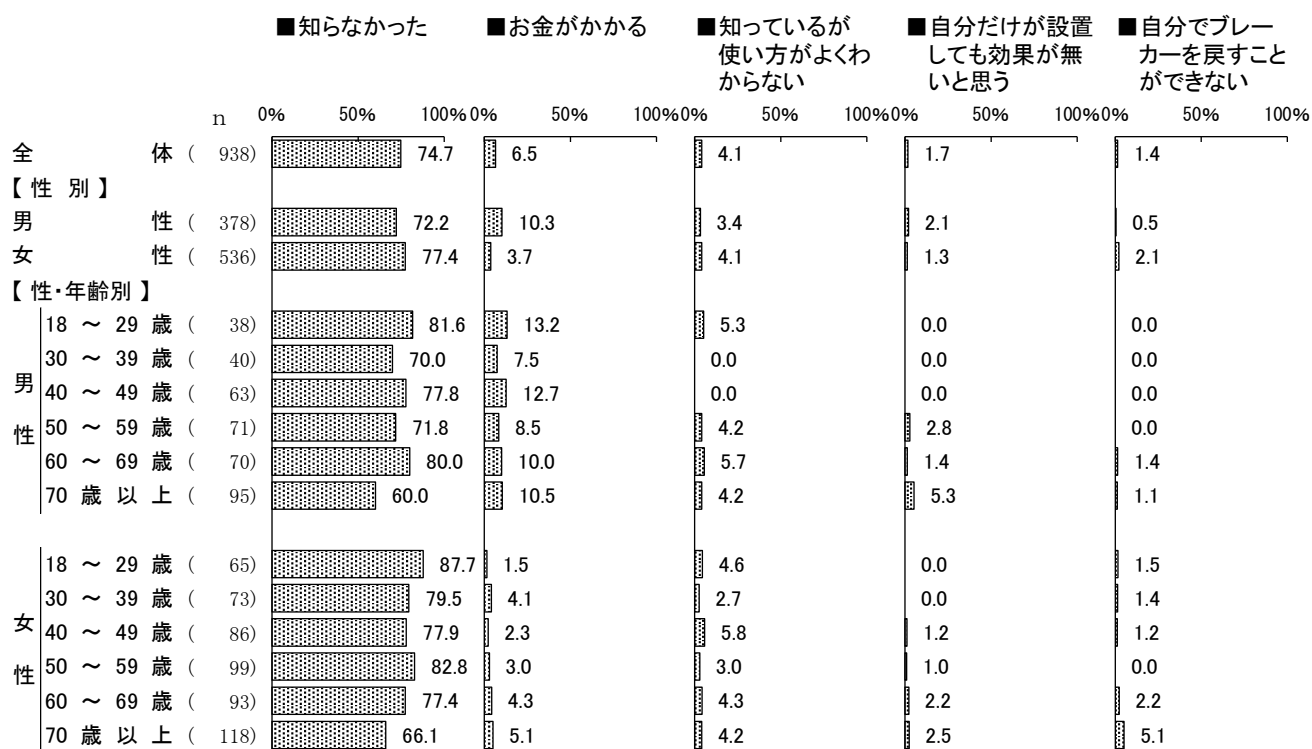
【問40で「4 感震ブレーカーの設置」と答えなかった方へ】  
問40-3 感震ブレーカーを設置していないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図2-14-5 感震ブレーカーを設置していない理由



自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えなかった人(938人)に、感震ブレーカーを設置していない理由を聞いたところ、「知らなかった」(74.7%)が7割半ばと最も多く、次いで「お金がかかる」(6.5%)、「知っているが使い方がよくわからない」(4.1%)などの順となっている。(図2-14-5)

図2-14-6 感震ブレーカーを設置していない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「お金がかかる」は男性の方が女性より6.6ポイント高くなっている。一方、「知らなかった」は女性の方が男性より5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「知らなかった」は女性18～29歳で9割近くと多くなっている。

(図2-14-6)

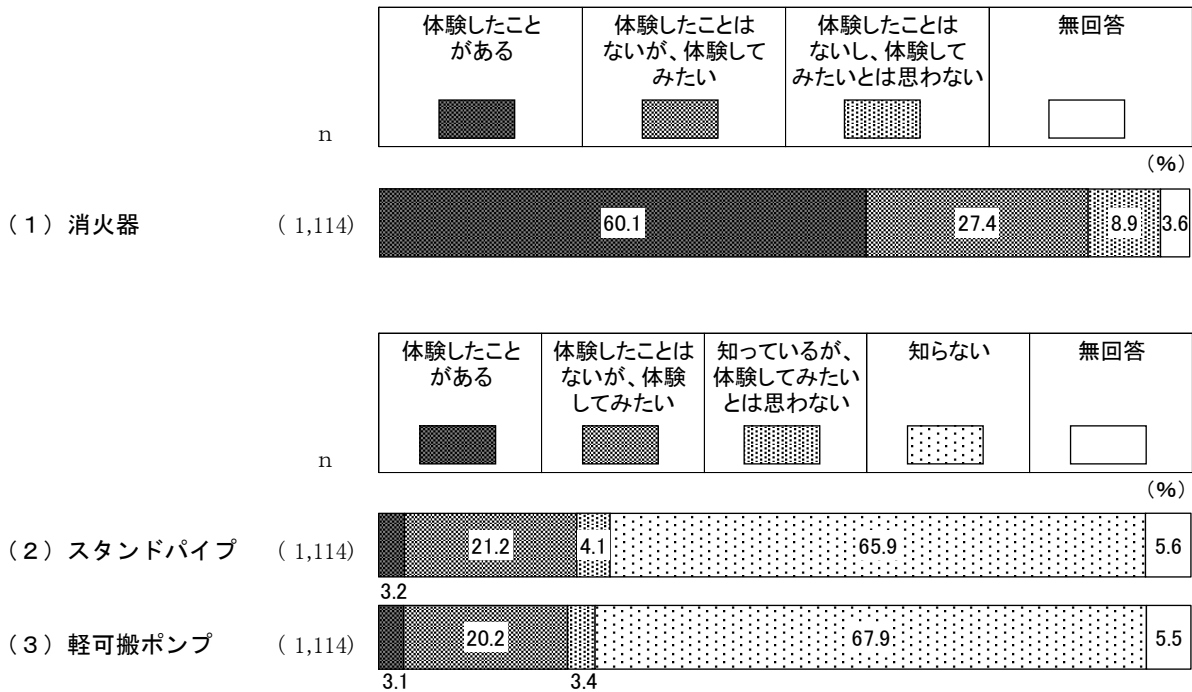
(15) 消火器具の操作訓練の体験

◇消火器は「体験したことがある」が6割

◇スタンドパイプ、軽可搬ポンプは「体験したことがある」がわずか

問41 火災による被害を防止するためには、速やかな初期消火が重要です。  
あなたは、消火器やスタンドパイプ、軽可搬ポンプなどの操作訓練を体験した  
ことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

図2-15-1 消火器具の操作訓練の体験



消火器具の操作訓練を体験したことがあるかを聞いたところ、(1) 消火器は「体験したことがある」(60.1%)が6割、「体験したことはないが、体験してみたい」(27.4%)が3割近くとなっている。

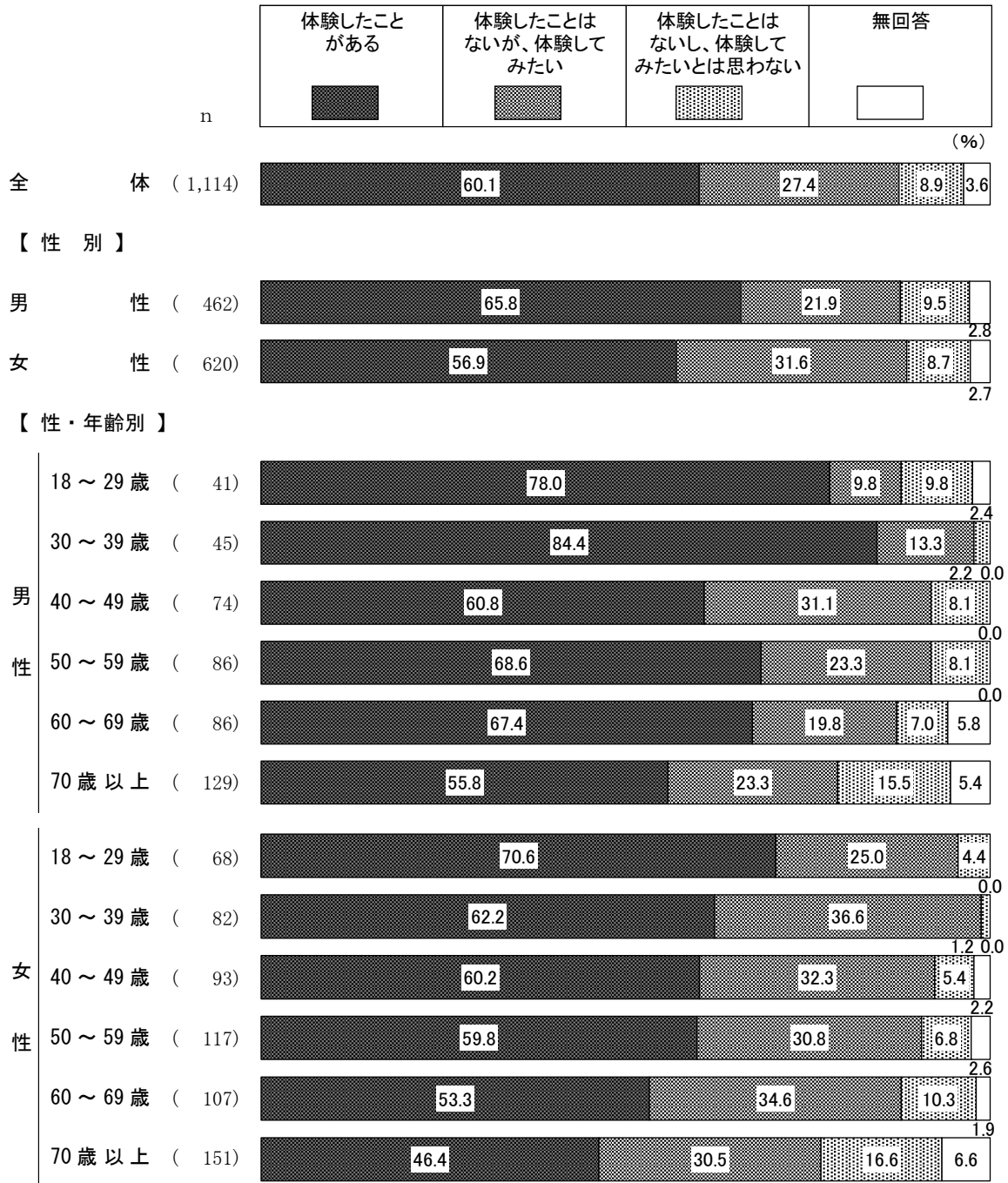
(2) スタンドパイプは「体験したことがある」(3.2%)はわずかとなっている。一方、「知らない」(65.9%)が6割半ばとなっている。

(3) 軽可搬ポンプは「体験したことがある」(3.1%)はわずかとなっている。一方、「知らない」(67.9%)が7割近くとなっている。



図2-15-2 消火器具の操作訓練の体験—性別／性・年齢別

(1) 消火器

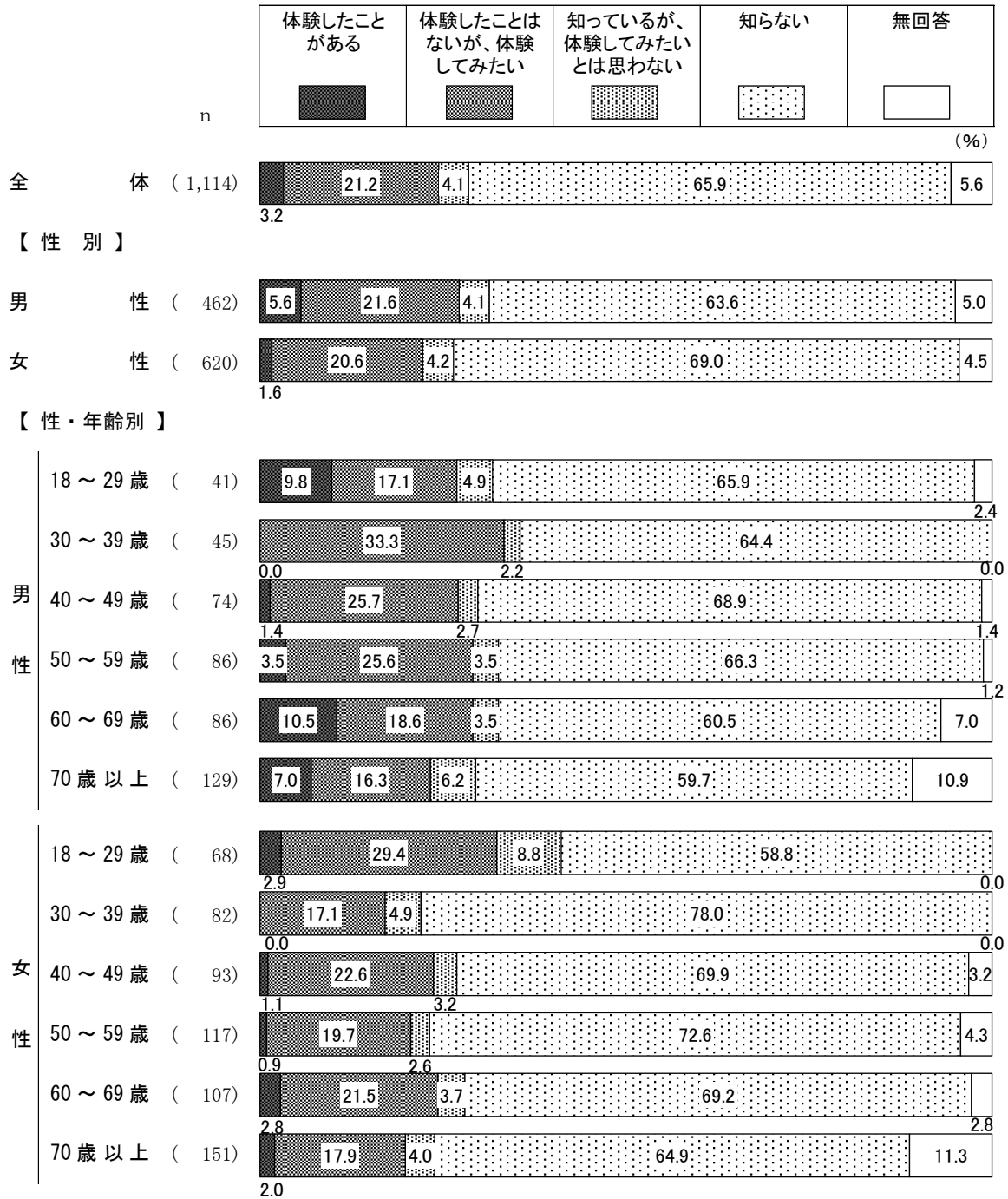


性別にみると、「体験したことがある」は男性の方が女性より8.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「体験したことがある」は男性30～39歳で8割半ばと多くなっている。「体験したことはないが、体験してみたい」は女性30～39歳で4割近くと多くなっている。一方、「体験したことはないし、体験してみたいとは思わない」は女性70歳以上で2割近くとなっている。(図2-15-2)

図2-15-3 消火器具の操作訓練の体験—性別／性・年齢別

(2) スタンドパイプ

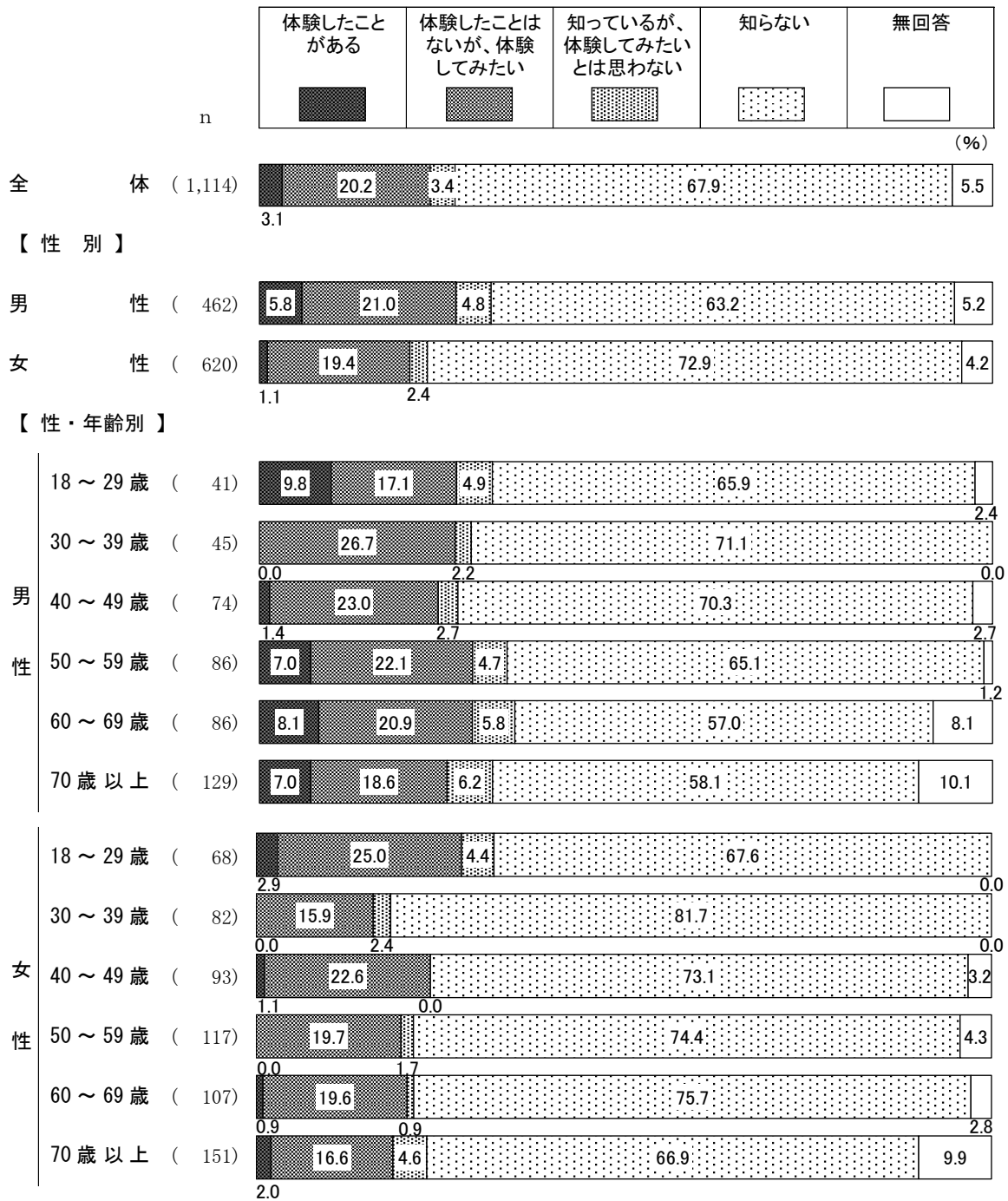


性別にみると、「体験したことがある」は男性の方が女性より4.0ポイント高くなっている。一方、「知らない」は女性の方が男性より5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「体験したことがある」は男性60～69歳で約1割、男性18～29歳で1割となっている。「体験したことはないが、体験してみたい」は男性30～39歳で3割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は女性30～39歳で8割近くと多くなっている。(図2-15-3)

図2-15-4 消火器具の操作訓練の体験—性別／性・年齢別

(3) 軽可搬ポンプ



性別にみると、「体験したことがある」は男性の方が女性より4.7ポイント高くなっている。一方、「知らない」は女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。

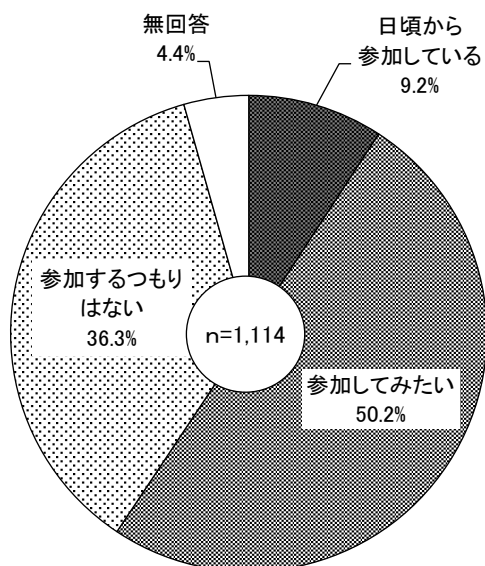
性・年齢別にみると、「体験したことがある」は男性18～29歳で1割となっている。「体験したことはないが、体験してみたい」は男性30～39歳で3割近くと多くなっている。一方、「知らない」は女性30～39歳で8割を超えて多くなっている。(図2-15-4)

(16) 地域の防災活動の参加経験

◇「参加してみたい」が5割

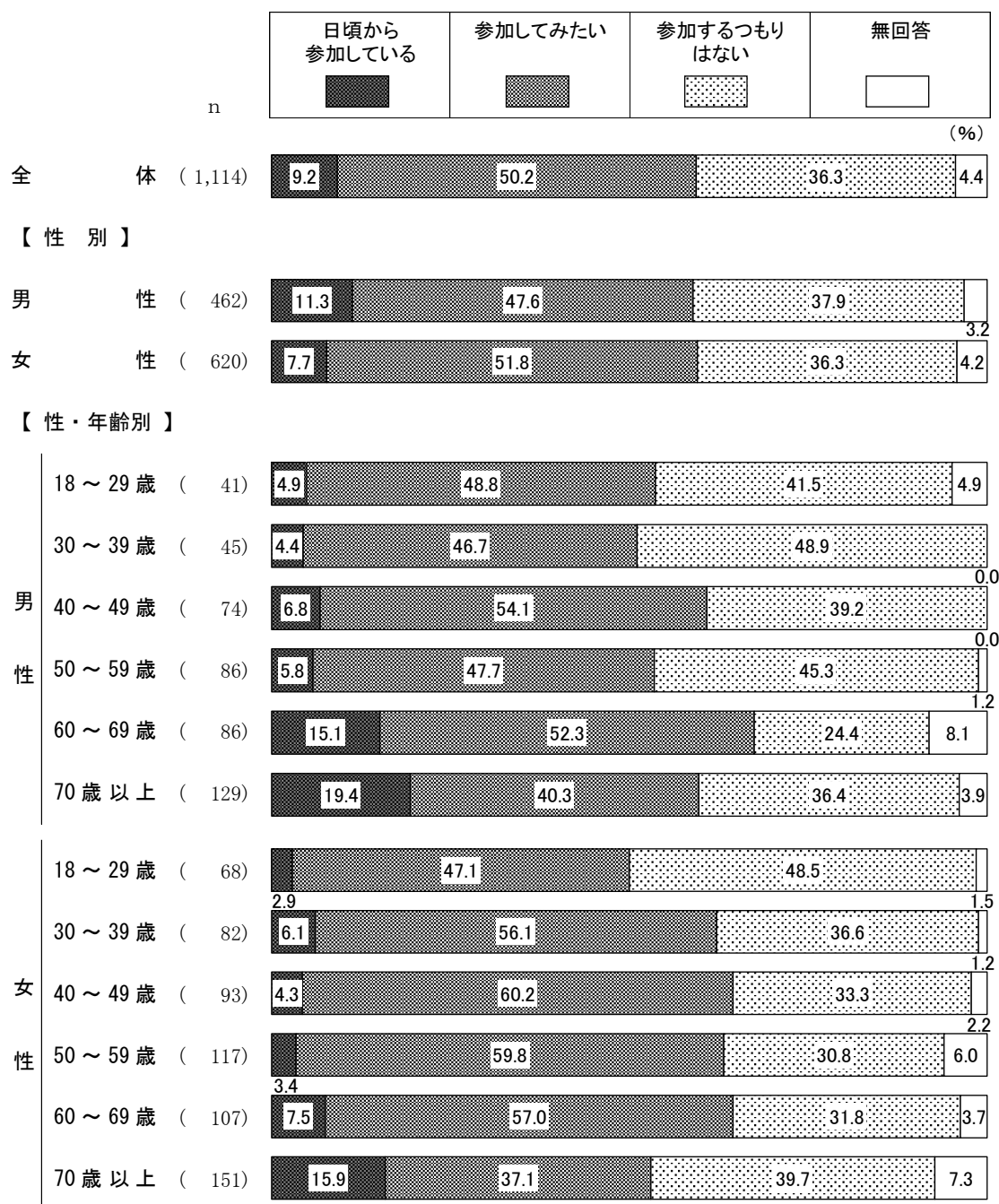
問42 区内各地域では、災害発生に備えて、様々な防災活動が行われています。自分たちのまちを守るために、地域の防災活動に参加してみようと思いますか。  
(○は1つ)

図2-16-1 地域の防災活動の参加経験



地域の防災活動の参加経験を聞いたところ、「日頃から参加している」(9.2%)が約1割、「参加してみたい」(50.2%)が5割となっている。一方、「参加するつもりはない」(36.3%)は3割半ばとなっている。(図2-16-1)

図2-16-2 地域の防災活動の参加経験—性別／性・年齢別



性別にみると、「日頃から参加している」は男性の方が女性より3.6ポイント高くなっている。一方、「参加してみたい」は女性の方が男性より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「日頃から参加している」は男性70歳以上で約2割と多くなっている。「参加してみたい」は女性40～49歳、女性50～59歳で6割と多くなっている。一方、「参加するつもりはない」は男性30～39歳、女性18～29歳で5割近くと多くなっている。(図2-16-2)

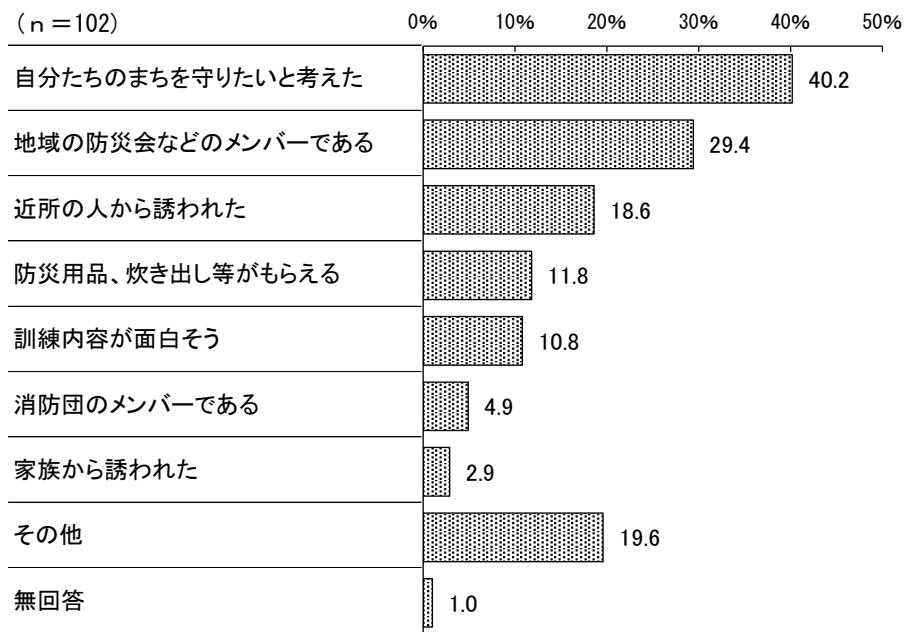
(16-1) 地域の防災活動に参加したきっかけ

◇「自分たちのまちを守りたいと考えた」が4割

【問42で「1日頃から参加している」と答えた方へ】

問42-1 参加したきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

図2-16-3 地域の防災活動に参加したきっかけ



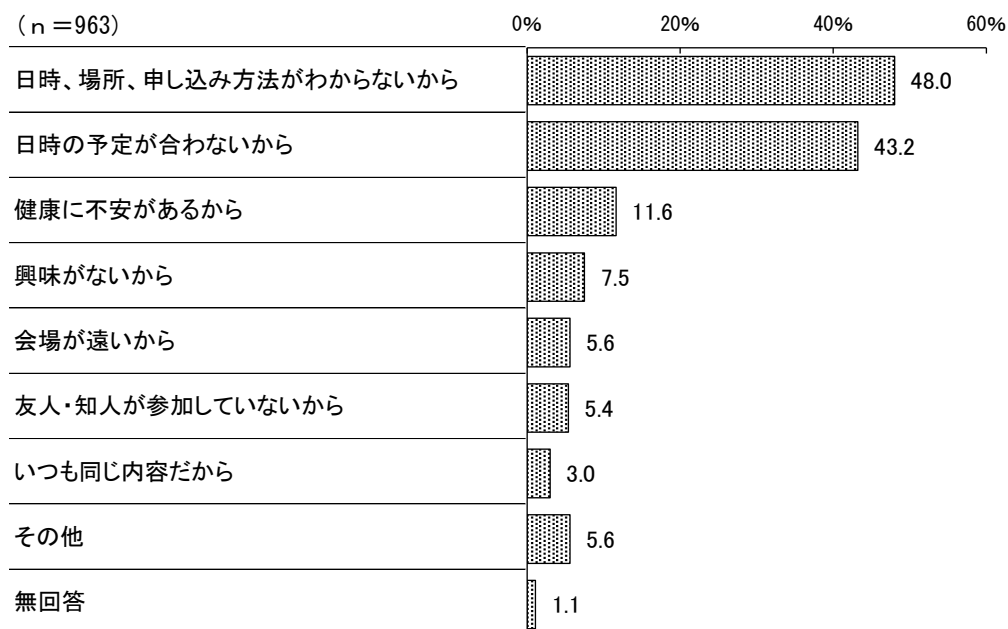
地域の防災活動に「日頃から参加している」と答えた人(102人)に参加したきっかけを聞いたところ、「自分たちのまちを守りたいと考えた」(40.2%)が4割と最も多く、次いで「地域の防災会などのメンバーである」(29.4%)、「近所の人から誘われた」(18.6%)、「防災用品、炊き出し等がもらえる」(11.8%)などの順となっている。(図2-16-3)

(16-2) 地域の防災活動に今まで参加していない・参加するつもりがない理由

◇「日時、場所、申し込み方法がわからないから」が5割近く

【問42で「2 参加してみたい」または「3 参加するつもりはない」と答えた方へ】  
問42-2 今まで参加していなかった、または参加するつもりがないのはなぜですか。  
(〇はいくつでも)

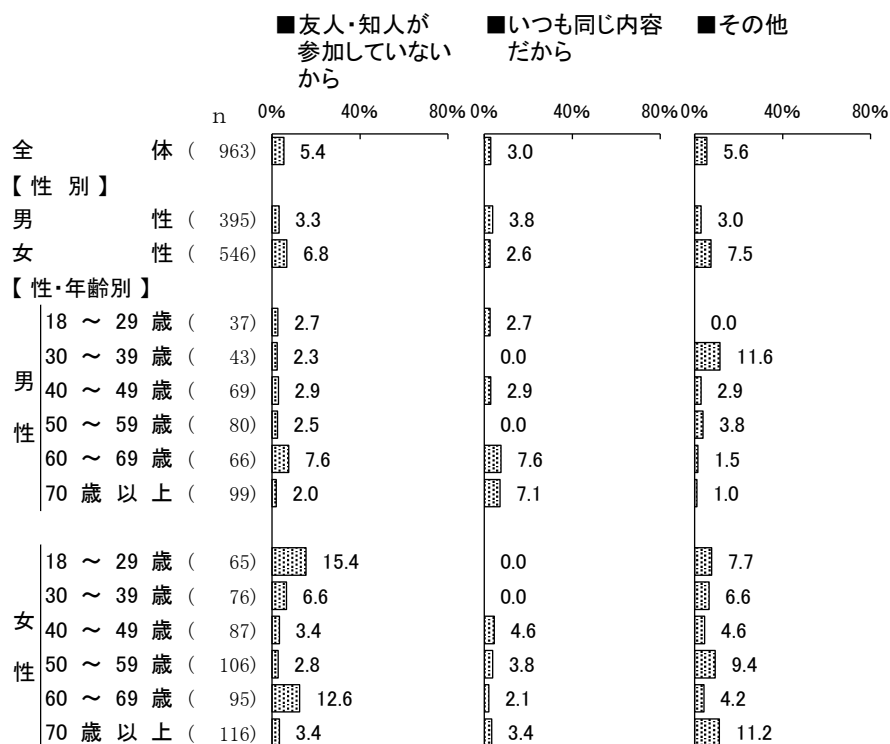
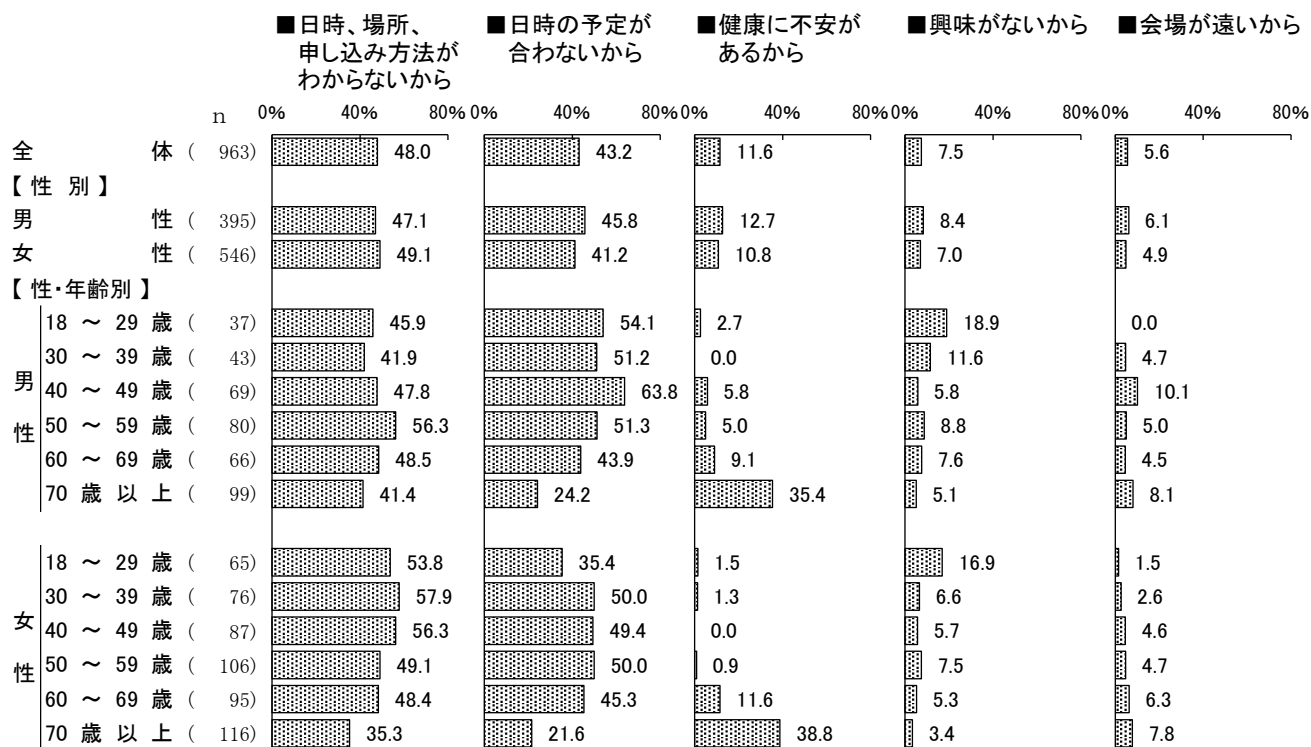
図2-16-4 地域の防災活動に今まで参加していない理由・参加するつもりがない理由



地域の防災活動に「参加してみたい」、「参加するつもりはない」と答えた人（963人）に今まで参加していない理由、参加するつもりがない理由を聞いたところ、「日時、場所、申し込み方法がわからないから」（48.0%）が5割近くと最も多く、次いで「日時の予定が合わないから」（43.2%）、「健康に不安があるから」（11.6%）などの順となっている。

(図2-16-4)

図 2-16-5 地域の防災活動に今まで参加していない理由・参加するつもりがない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「日時の予定が合わないから」は男性の方が女性より4.6ポイント高くなっている。一方、「友人・知人が参加していないから」は女性の方が男性より3.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「日時、場所、申し込み方法がわからないから」は女性30～39歳で6割近くと多くなっている。「日時の予定が合わないから」は男性40～49歳で6割を超えて多くなっている。また、「健康に不安があるから」は女性70歳以上で4割近くと多くなっている。

(図 2-16-5)

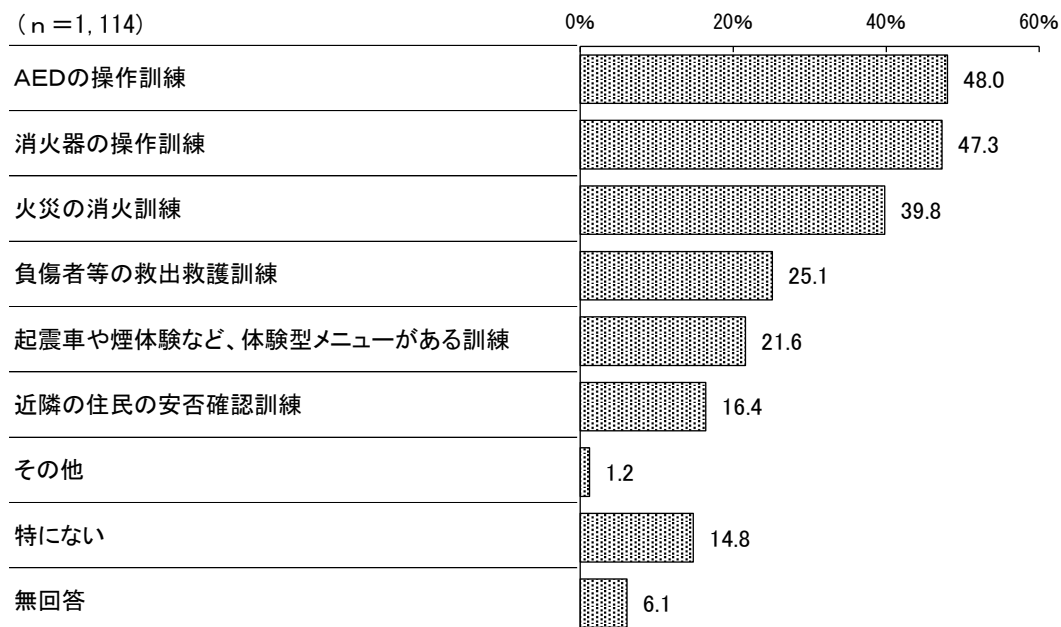


(17) 体験したい防災訓練

◇「AEDの操作訓練」が5割近く

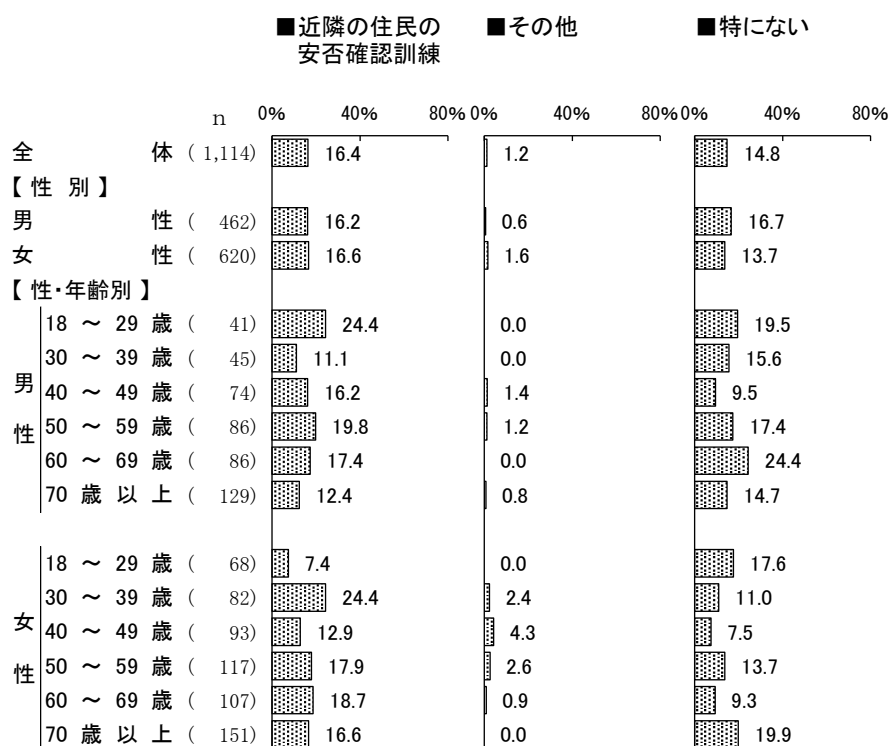
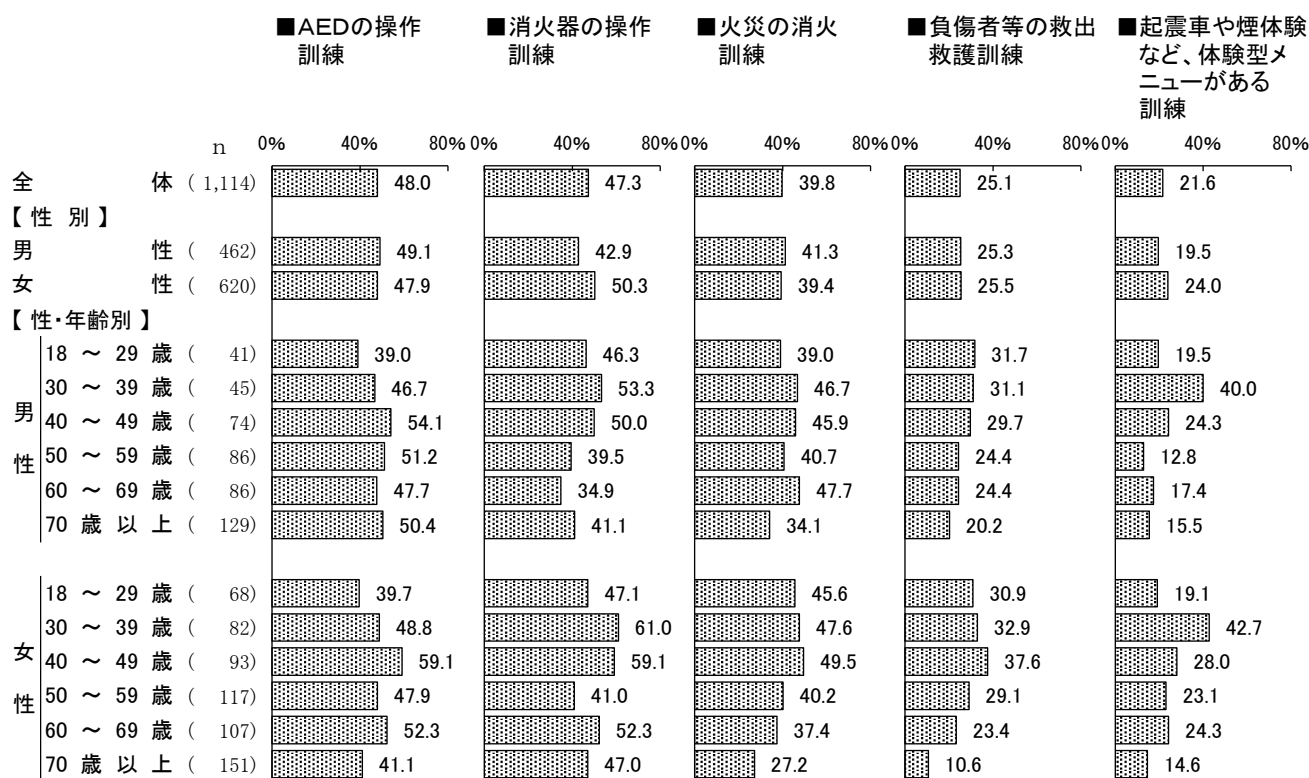
問43 防災訓練で、どのようなものを体験したいですか。(〇はいくつでも)

図2-17-1 体験したい防災訓練



体験したい防災訓練について聞いたところ、「AEDの操作訓練」(48.0%)が5割近くと最も多く、次いで「消火器の操作訓練」(47.3%)、「火災の消火訓練」(39.8%)、「負傷者等の救出救護訓練」(25.1%)などの順となっている。一方、「特にない」(14.8%)は1割半ばとなっている。(図2-17-1)

図2-17-2 体験したい防災訓練—性別／性・年齢別



性別にみると、「消火器の操作訓練」は女性の方が男性より7.4ポイント、「起震車や煙体験など、体験型メニューがある訓練」が4.5ポイント、それぞれ高くなっている。

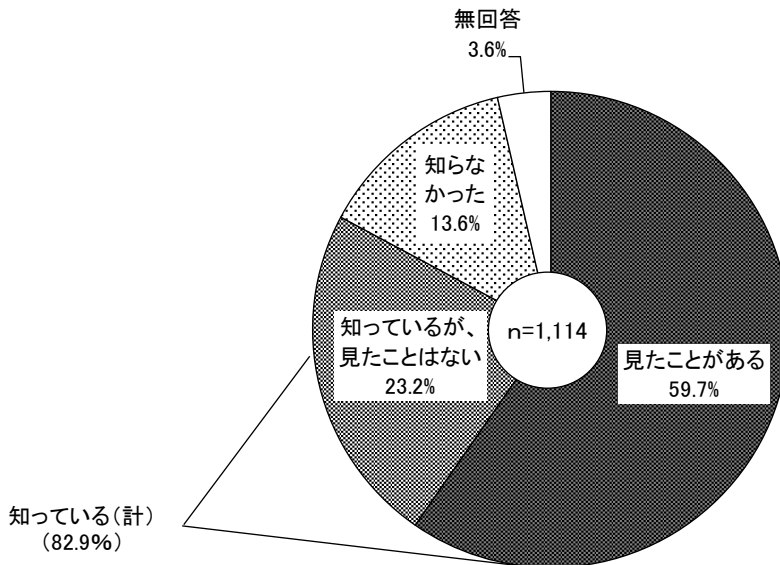
性・年齢別にみると、「AEDの操作訓練」は女性40～49歳で約6割と多くなっている。「消火器の操作訓練」は女性30～39歳で6割を超えて多くなっている。また、「火災の消火訓練」は女性40～49歳で5割と多くなっている。(図2-17-2)

(18) 「水害ハザードマップ」の認知と自宅周辺の災害リスクの確認経験

◇『知っている』が8割を超える

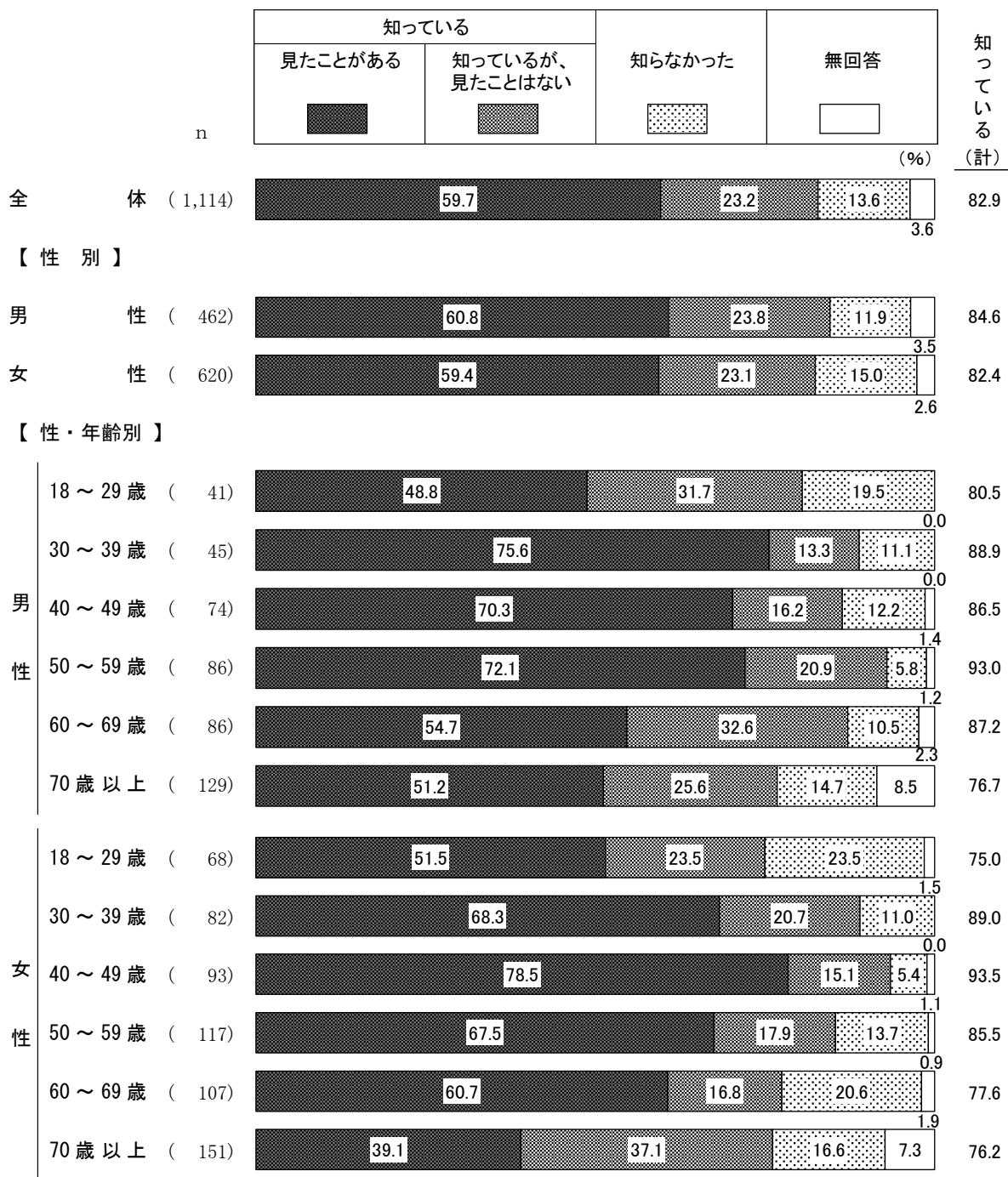
問44 「水害ハザードマップ」では浸水する区域や深さ等を確認することができます。「水害ハザードマップ」を見て、自宅周辺の災害リスクを確認したことがありますか。(○は1つ)

図2-18-1 「水害ハザードマップ」の認知と自宅周辺の災害リスクの確認経験



「水害ハザードマップ」で自宅周辺の災害リスクの確認経験を聞いたところ、「見たことがある」(59.7%)が6割、「知っているが、見たことはない」(23.2%)が2割を超え、この2つを合わせた『知っている』(82.9%)が8割を超えている。一方、「知らなかった」(13.6%)は1割を超えている。(図2-18-1)

図2-18-2 「水害ハザードマップ」の認知と自宅周辺の災害リスクの確認経験—性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

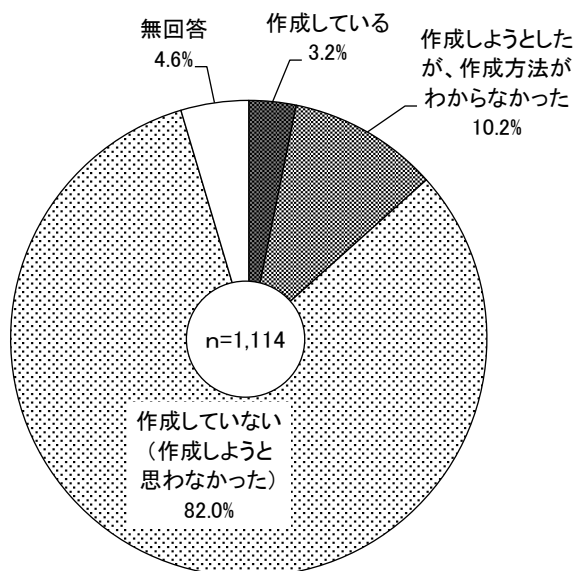
性・年齢別にみると、「見たことがある」は女性40～49歳で8割近くと多くなっている。『知っている』は男性50～59歳、女性40～49歳で9割を超えて多くなっている。一方、「知らなかった」は女性18～29歳で2割を超えて多くなっている。(図2-18-2)

(19) 水害に備えて自らの行動計画の作成状況

◇「作成していない（作成しようと思わなかった）」が8割を超える

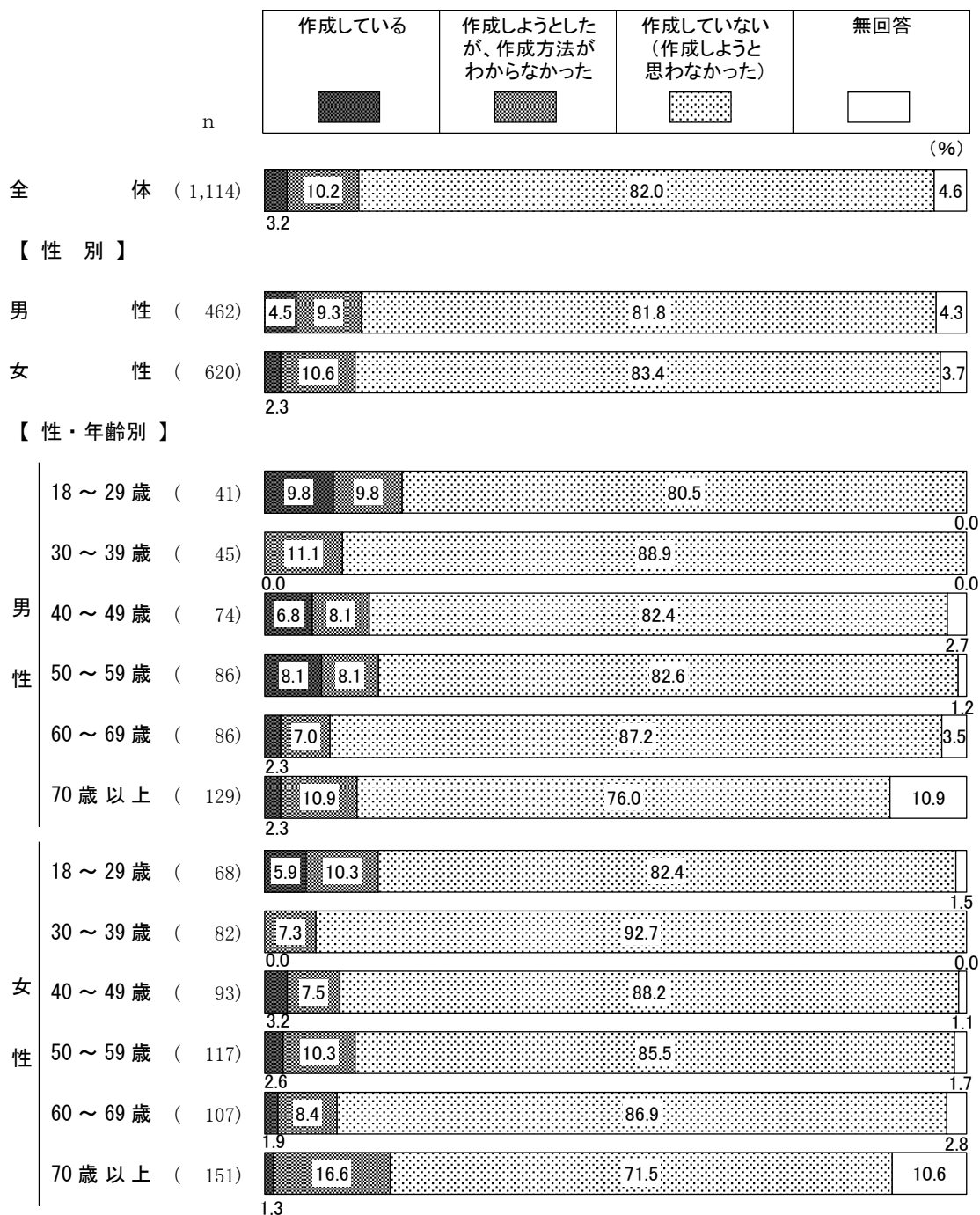
問45 いざというときに慌てず安全に避難行動をとることができるようにすることが重要です。あなたは、水害に備えて自らの行動計画を作成していますか。  
(○は1つ)

図2-19-1 水害に備えて自らの行動計画の作成状況



水害に備えて自らの行動計画の作成状況を聞いたところ、「作成している」（3.2%）はわずかとなり、「作成しようとしたが、作成方法がわからなかった」（10.2%）が1割となっている。一方、「作成していない（作成しようと思わなかった）」（82.0%）が8割を超えている。（図2-19-1）

図2-19-2 水害に備えて自らの行動計画の作成状況－性別／性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

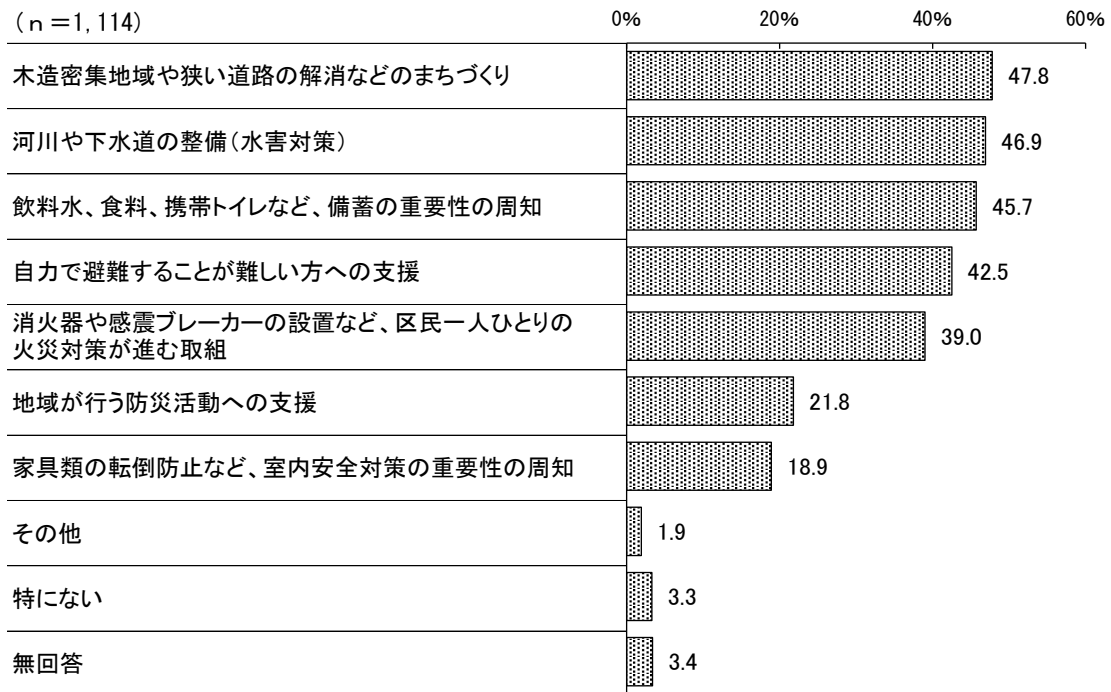
性・年齢別にみると、「作成している」は男性18～29歳で1割となっている。「作成しようとしたが、作成方法がわからなかった」は女性70歳以上で2割近くとなっている。一方、「作成していない（作成しようと思わなかった）」は女性30～39歳で9割を超えている。（図2-19-2）

(20) 区に取り組んでほしい防災対策

◇「木造密集地域や狭い道路の解消などのまちづくり」が5割近く

問46 区に取り組んでほしい防災対策はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

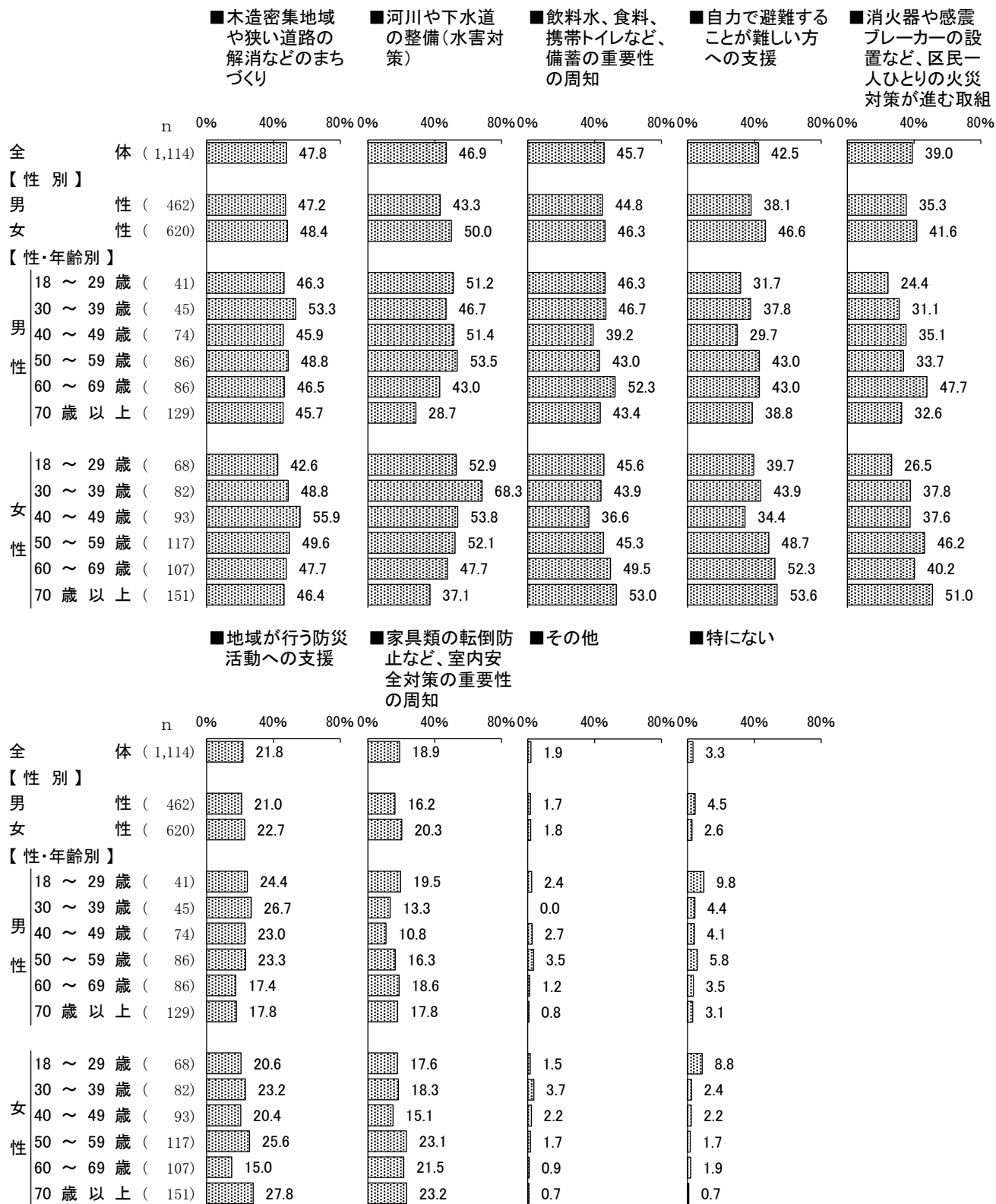
図2-20-1 区に取り組んでほしい防災対策



区に取り組んでほしい防災対策について聞いたところ、「木造密集地域や狭い道路の解消などのまちづくり」(47.8%)が5割近くと最も多く、次いで「河川や下水道の整備(水害対策)」(46.9%)、「飲料水、食料、携帯トイレなど、備蓄の重要性の周知」(45.7%)、「自力で避難することが難しい方への支援」(42.5%)などの順となっている。

(図2-20-1)

図2-20-2 区に取り組んでほしい防災対策—性別／性・年齢別



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、「自力で避難することが難しい方への支援」が8.5ポイント、「河川や下水道の整備（水害対策）」が6.7ポイント、「消火器や感震ブレーカーの設置など、区民一人ひとりの火災対策が進む取組」が6.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「河川や下水道の整備（水害対策）」は女性30～39歳で7割近くと多くなっている。また、「自力で避難することが難しい方への支援」は女性60～69歳、女性70歳以上で5割を超えて多くなっている。（図2-20-2）